

2016年6月29日

知るぽると

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局内)

「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)

2015年度調査

- この調査は、知るぽると 金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）が、学校における金融教育の支援活動の参考とするため、子どものお金にまつわる日常生活（おこづかい、お年玉、インターネット利用など）、お金に関する意識・行動、金融経済に関する基本的な知識などを、無記名のアンケート方式により調査したものです。

全国（全都道府県）の290校の小学校・中学校・高等学校のご協力を得て、50,149名の児童・生徒に参加いただきました。

調査結果の概略

1. おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理

- ・ おこづかいは、小学生の7割強、中学生の8割強、高校生の約8割がもらっている。もらうに当たって「何の前提条件もない」と中学生・高校生の7～8割が回答している。
- ・ おこづかいは、お年玉は、ほとんどの子どもがもらっており、1万円から5万円が多い。もらったお年玉は、小学生では「銀行や郵便局などに貯蓄（預金や貯金）する」、中学生・高校生では、「おこづかいで不足する部分にあてる」との回答が多い。
- ・ 「おこづかいが足りなくなる」と「ある」のは、学年段階があがるにつれて増えるが、不足したときの対応は「がまんする」が4～6割と多数。
- ・ 自分の貯蓄が「ある」のは4～5割（小学生低学年を除く）で、「定期的に貯蓄をする」のは中学生・高校生の2～3割。「おこづかい帳」をつけていない子どもは、7～8割に上るが、つけている方が定期的に貯蓄する傾向にある。

2. 携帯電話・スマートフォン、インターネット、電子マネー、トラブル等の経験

- ・ 携帯電話・スマートフォンは、小学生の約3割、中学生の約5割、高校生の約9割が保有しているほか、パソコン・タブレット端末も中学生・高校生は約3割が保有している。
- ・ インターネットは、約7割がパソコンを使って利用しているほか、中学生の約6割・高校生の約9割がスマートフォンでも利用している。学校のパソコンによる利用は小学生で約5割、中学生・高校生では2～3割。
- ・ 利用する目的としては、「調べものをする」が最も多いが、「友達と情報交換をする」、「映画・動画をみる」、「ゲームをする」がこれに続いている。

- ・ 図書カードやポイントは全国で5～7割と広く使われている。また、プリペイドカード^(*)や電子マネーも3～4割利用されている。

^(*) 例えば、iTunesカード、モバコインカード、Amazonギフトカード、HMVギフトカードなど。

- ・ 中学生・高校生が経験しているトラブルでは、「迷惑メールが送られてきた」が多数(3～5割)。

3. 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト

- ・ 子どもたちは、家の人と「家の中の仕事のこと」、「将来の夢」、「進路のこと」などを話している。
- ・ 小学生は、食事のしたく、お風呂の掃除、洗濯や洗濯物の片づけなど広い範囲で家事・手伝いを行っている。アルバイトに関心を持つ中学生・高校生は多く、女子の方がしてみたいと考え、実際にしている割合も高い。

4. お金に関する意識、金融経済に関する知識、知識と行動等

- ・ お金に関する意識をみると、「お金をたくさん貯めたい」(7～9割)、「お金よりも大事なものがある」(7～8割)、「お金はコツコツ働いて貯めるもの」(中学生・高校生の7～8割)と思う割合が高い。
- ・ お金に関する行動をみると、家の人と「ほぼ毎日話をする」方が、計画をたてておこづかいを使い、釣り銭を確認し、レシートを持ち帰る割合が高い。また、「将来のことよりも現在の方が大事」には「そう思わない」、「気になったことはすぐに調べる」に「あてはまる」との回答が多い。
- ・ 金融経済の知識や金融用語の理解度をみると、「保険」など日常の暮らしに関わる事項は概ね理解されているが、利子・物価・契約・クレジットカード・複利・インフレ・デフレなどに対する正答率が低い。高校生では「72の法則」、「投機」、「分散投資」といった用語を「聞いたことがない」割合が高く、PISA2012の金融リテラシー調査類似の設問における正答率も中国や米国・OECD13か国平均より低い。

「知るぽると 金融広報中央委員会」について

知るぽると 金融広報中央委員会(事務局 日本銀行情報サービス局内)は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と、一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

本調査についての照会先

金融広報中央委員会(事務局 日本銀行情報サービス局内)

電話 03(3277)2579(直通) 阿部

なお、調査結果については、金融広報中央委員会のインターネット・ホームページ(アドレス:
<http://www.shiruporuto.jp/>)でも閲覧・ダウンロードすることができます。

— 目 次 —

【調査要綱】	1
【調査結果の概要】	
I おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理	
1. おこづかい	3
2. お年玉	6
3. お金の使い方や管理	8
II 携帯電話・スマートフォン、インターネット、電子マネー、トラブル等の経験	
1. 持ち物	15
2. 携帯電話やスマートフォン	17
3. インターネット	19
4. 電子マネー等	22
5. トラブル等の経験	23
III 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト	
1. 家の人との会話	24
2. 家事・手伝い	26
3. アルバイト	27
IV お金についての意識、行動や考え方、金融経済の知識等	
1. お金についての意識	28
2. お金に関する行動や考え方等	30
3. 金融経済の知識	33
4. PISA2012 類似の問題	36

【調査要綱】

1. 調査の目的

この調査は、学校での金融教育の支援活動の参考とするため、子どものお金にまつわる日常生活（おこづかい、お年玉、インターネット利用など）、お金に関する意識・行動、金融経済に関する基本的な知識などについて、調査したものです。

平成 17（2005）年度に第 1 回の調査、平成 22（2010）年度に第 2 回の調査を実施しました。その後の子どもを取り巻く金融環境等の変化などを踏まえ、今回、5 年振りに第 3 回目となる調査を実施しました。

2. 調査の内容

主な調査項目は次のとおりです。なお、本調査の具体的な設問内容については、【調査結果（単純集計データ）】に掲載している調査票を参照ください。

（1）おこづかい、お年玉

有無、金額、もらう相手、おこづかいの使いみち、足りなくなったときの対処方法等

（2）貯蓄・アルバイト等

預金口座の有無、貯蓄方法、図書カード・電子マネーなどの利用、アルバイトの経験・考え方、持ち物を売った経験等

（3）持ち物・携帯電話・スマートフォン・インターネットの利用

専用の持ち物、携帯電話・スマートフォンの利用金額・用途、インターネットの利用・利用時間、トラブルの経験等

（4）家の人との会話、家事・手伝い

会話の内容・頻度、家庭での家事・手伝い等

（5）お金についての意識、金融経済の知識

お金についての意識や行動、お金や金融経済についての考え方、金融経済の知識等

3. 調査対象校の抽出方法

調査対象校は、国内の小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校とし、以下の方法により募集し、調査への協力を得ました。

（1）公募による募集（全国の学校へ協力先募集案内を送付したり、教育関係者向けセミナー等の席上で案内を配付したりしたほか、ホームページにて募集）

（2）無作為抽出法により抽出した先に協力を依頼

（3）都道府県金融広報委員会を通じた金融・金銭教育研究校への依頼

（4）その他個別校への依頼（教育関係者向けセミナー等に参加した学校など）

4. 調査の方法

- (1) 調査対象校へ調査票を郵送し、学校において児童・生徒が自ら記入し回答（学校を通した自記式調査）。回答は無記名。
- (2) 調査対象校のうちの無作為抽出先の応募受付、調査対象校への調査票の送付・回収、結果の集計は、㈱日本リサーチセンターに委託しました。

5. 調査の時期

2015年12月～2016年3月

6. サンプル数

本調査への協力校は290校、サンプル数合計は50,149（詳細は下表参照）。

地域	小学生					中学生		高校生	
	学校数	児童数				学校数	生徒数	学校数	生徒数
			低学年	中学年	高学年				
全 国	111	16,329	4,172	5,200	6,957	83	13,131	96	20,689
北海道	9	779	215	258	306	12	1,648	5	1,976
東 北	13	2,118	570	700	848	10	1,287	16	2,402
関 東	19	2,484	681	659	1,144	16	2,858	16	4,292
北 陸	8	1,326	424	394	508	4	526	9	1,772
中 部	21	2,999	814	1,124	1,061	11	1,518	12	2,772
近 畿	10	1,254	80	323	851	12	2,278	13	2,804
中 国	6	298	39	125	134	7	960	10	1,892
四 国	10	2,153	605	753	795	3	323	4	1,168
九 州	15	2,918	744	864	1,310	8	1,733	11	1,611

* 地域は、以下のように分類。

北海道 …… 北海道
 東 北 …… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 関 東 …… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 北 陸 …… 新潟県、富山県、石川県、福井県
 中 部 …… 山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 近 畿 …… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 中 国 …… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 四 国 …… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 九 州 …… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

** 小学校は、すべての学校が低学年・中学年・高学年で調査を実施しているわけではありません。

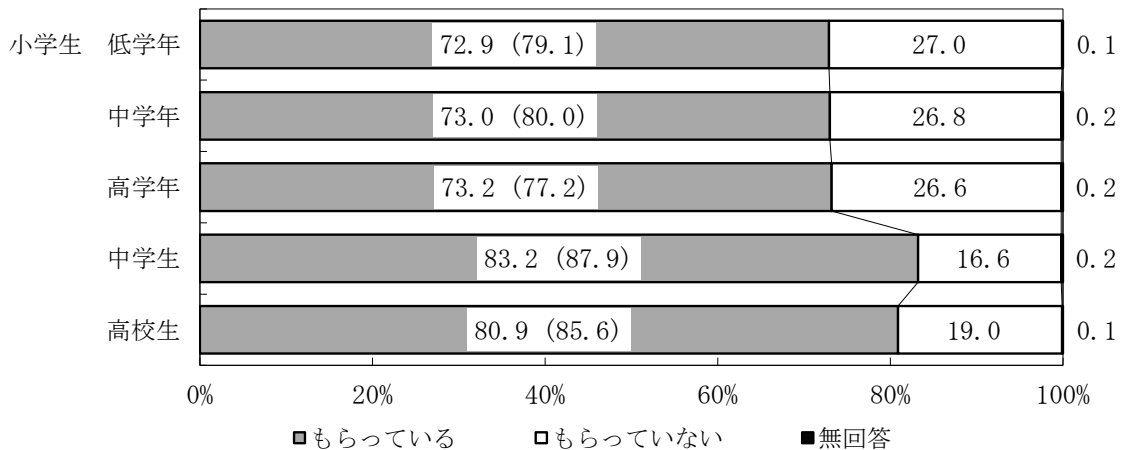
I おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理

1. おこづかい

(1) おこづかいの有無、もらう相手

- ・おこづかいは、小学生の7割強、中学生の8割強、高校生の約8割が「もらっている」と回答している【図表1】。
- ・おこづかいをもらっている相手は、「親」の割合がもっとも高いが、小学生では、「祖父母」からももらう割合が4割を超える【図表2】【図表3】。

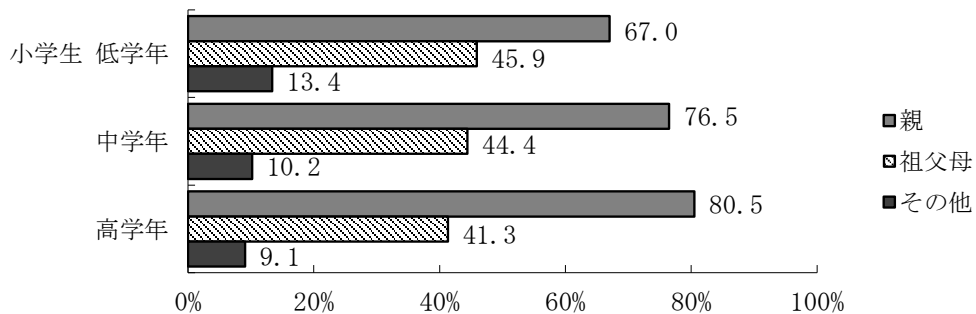
【図表1】 おこづかいの有無



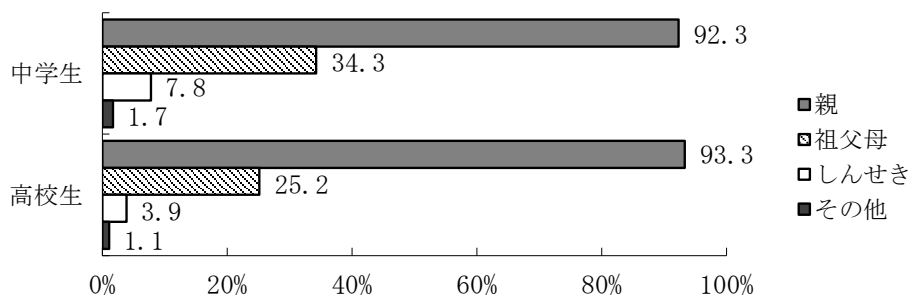
(注1) 中学生と高校生の「もらっている」は、「もらっている(定期的)」と「もらっている(必要の都度)」の合計。

(注2) () 内は、前回調査(平成22年度)の結果。

【図表2】 もらっている相手(複数回答) <小学生>



【図表3】 もらっている相手(複数回答) <中学生・高校生>

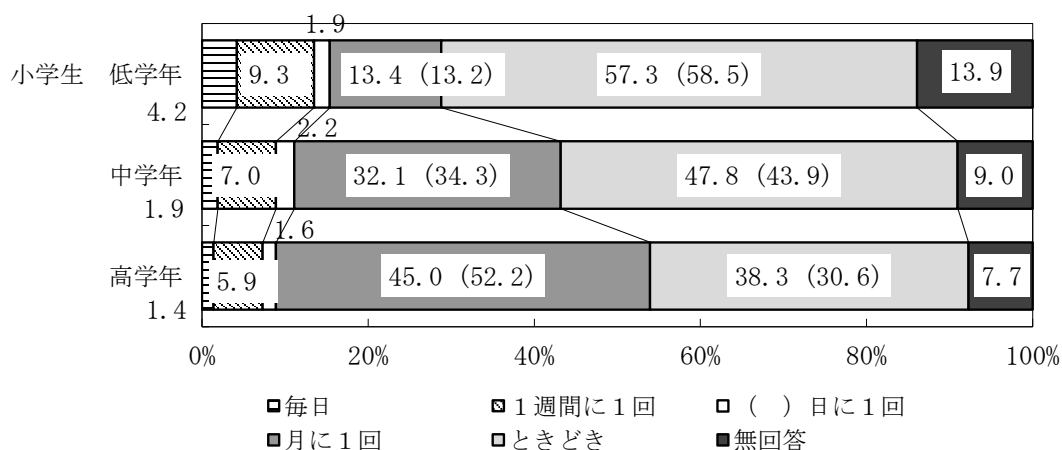


(2) おこづかいのもらい方、金額

- ・小学生のおこづかいのもらい方をみると、低学年では、「ときどき」もらっているとの回答が6割弱で最も多い【図表4】。
- ・中学年では、「ときどき」が最も多く、次いで「月に1回」となり、両者で約8割を占めている。
- ・高学年では、「月に1回」が最も多く、「ときどき」と合わせて8割強となっている。

【図表4】小学生のおこづかいのもらい方

<小学生>



(注) () 内は、前回調査 (平成 22 年度) の結果。

- ・最も多い回答 (最頻値) は、「月に1回」もらう場合で500円、「ときどき」もらう場合で、低学年と中学年は100円、高学年は1,000円となっている【図表5】。

【図表5】小学生のおこづかい額

		最頻値	最も多い金額帯	次に多い金額帯	平均値	中央値
月に1回	低学年	500円	500-700円未満 (22.6%)	100-200円未満 (16.5%)	1,004円	500円
	中学年	500円	500-700円未満 (25.8%)	1,000-1,500円未満 (18.9%)	864円	500円
	高学年	500円	500-700円未満 (37.9%)	1,000-1,500円未満 (29.5%)	1,085円	1,000円
ときどき	低学年	100円	100-200円未満 (29.9%)	100円未満 (17.8%)	1,004円	163円
	中学年	100円	100-200円未満 (24.2%)	500-700円未満 (16.5%)	923円	300円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円未満 (23.5%)	500-700円未満 (20.2%)	1,246円	500円

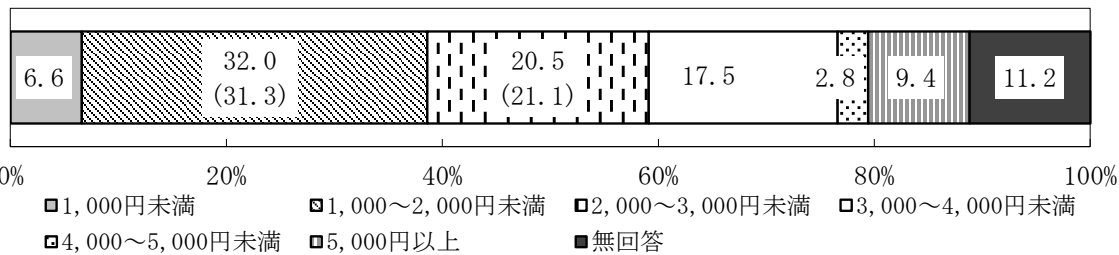
(注1) 最頻値は、最も多く回答された値。中央値は、回答金額を多い順に並べた場合に中位 (真ん中) に位置する値。

(注2) < >内は、当該金額帯の回答者の全体に占める割合。

- ・中学生の1か月のおこづかい額は、最頻値は1,000円、平均値は2,536円【図表6】。
- ・高校生の1か月のおこづかい額は、最頻値は5,000円、平均値は5,114円。

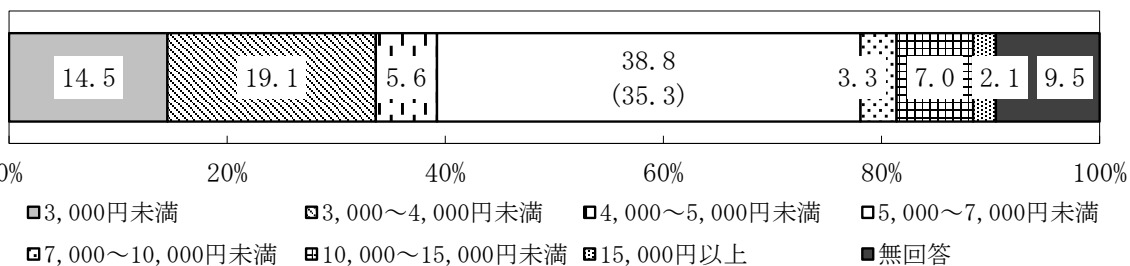
【図表6】中学生、高校生の1か月のおこづかい額

<中学生>



最頻値	平均値	中央値
1,000円 (1,000円)	2,536円 (2,502円)	2,000円 (2,000円)

<高校生>

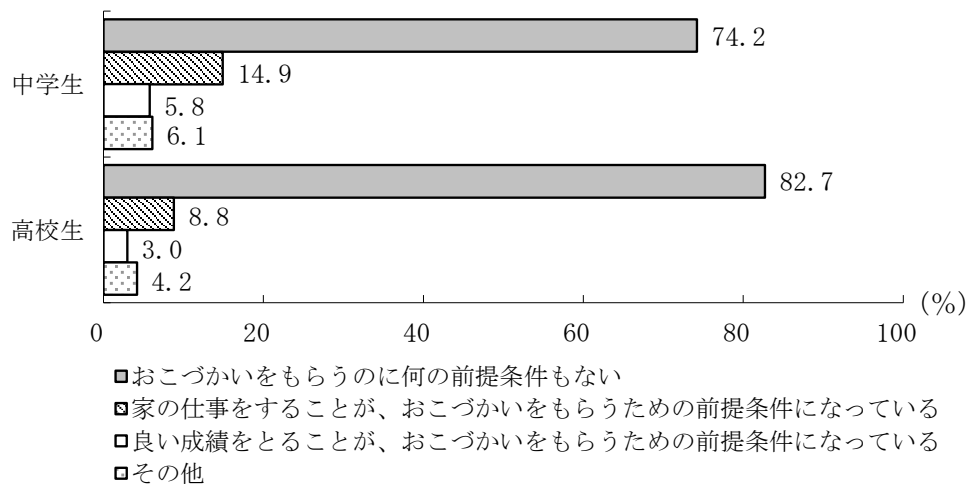


最頻値	平均値	中央値
5,000円 (5,000円)	5,114円 (5,305円)	5,000円 (5,000円)

(注) () 内は、前回調査 (平成22年度) の結果。

- ・中学生・高校生ともに、7~8割はおこづかいをもらうに当たって「何の前提条件もない」、中学生の1割強・高校生の1割弱は「家の仕事をするのが条件」となっている【図表7】。

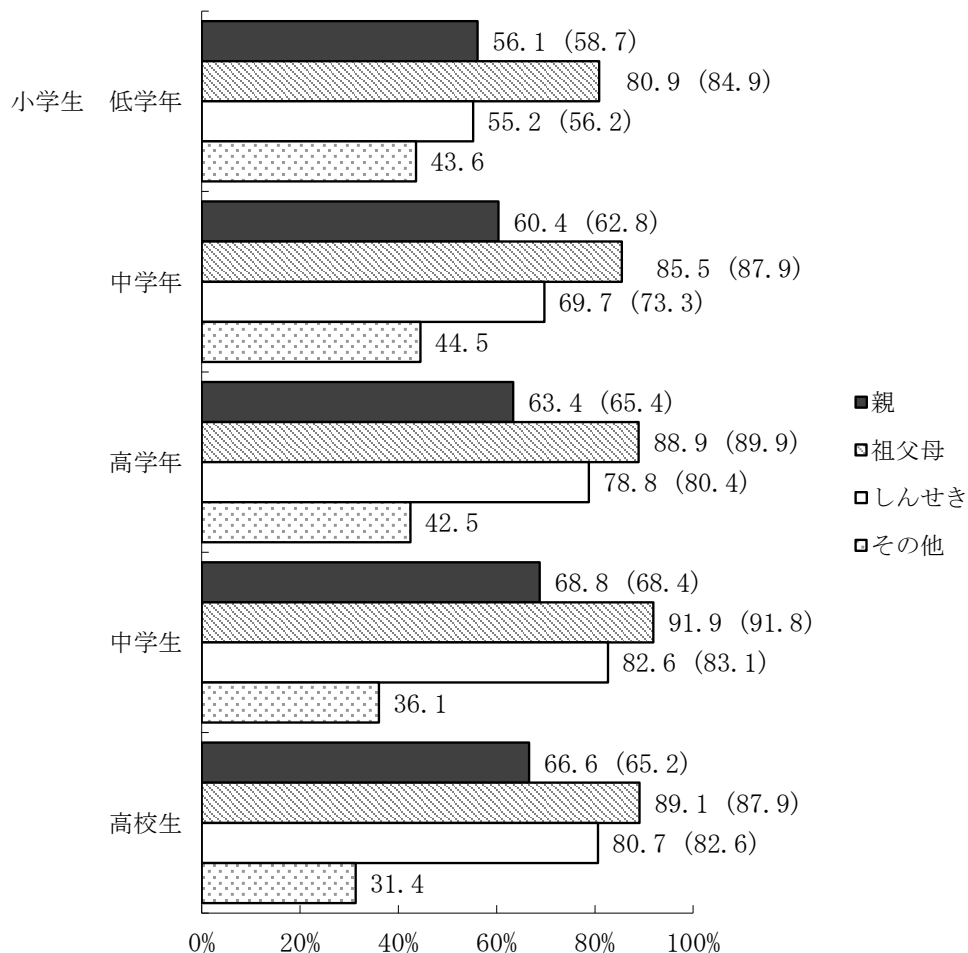
【図表7】中学生、高校生のおこづかいをもらうに当たっての前提条件



2. お年玉

- ・お年玉は、小学生・中学生・高校生のほとんどが「もらった」と回答。
- ・お年玉をもらった相手は、「祖父母」が最も多く、次いで、「しんせき」、「親」となっている【図表8】。
- ・お年玉の総額をみると、小学生では、低学年は「10,000円くらい」が最も多く（2割強）、中学年・高学年は「10,000～19,999円」が最も多く（約3割～3割弱）となっている。なお、これらの額を上回る額をもらっているとの回答も多い【図表9】。
- ・中学生・高校生では、「10,000～50,000円未満」が最も多く、6割強となっている。

【図表8】 お年玉をもらった相手（複数回答）



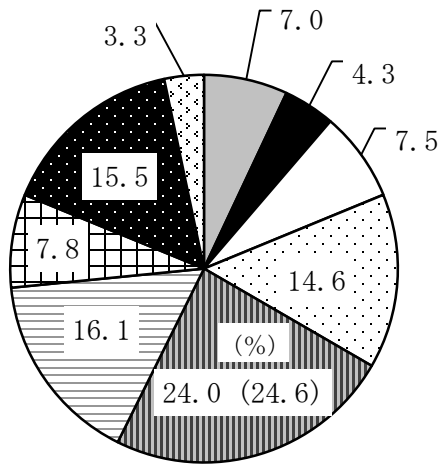
(注1) 小学生では、「くれた人」についての回答を集計。「しんせき」は「おじさん、おばさん、いとこ」。

(注2) 中学生・高校生については、「もらった人」別の金額欄に記入があった場合、「もらった相手」として集計。

(注3) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

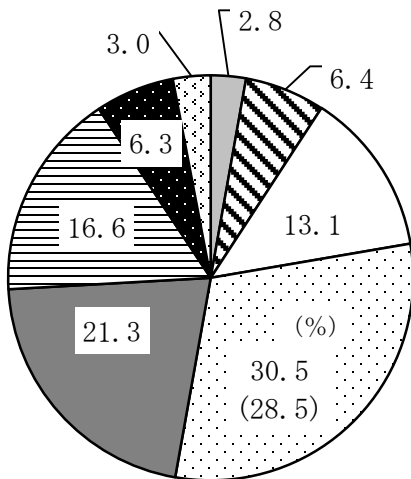
【図表9】お年玉の総額

<小学生 低学年>

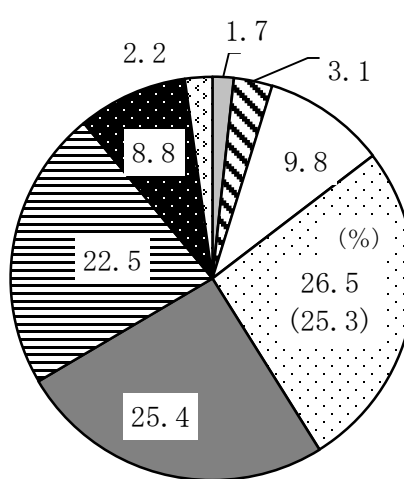


- 1,000円くらい
- 2,000円くらい
- 3,000円くらい
- 5,000円くらい
- 10,000円くらい
- 20,000円くらい
- 30,000円くらい
- もっと多い
- 無回答

<小学生 中学年>

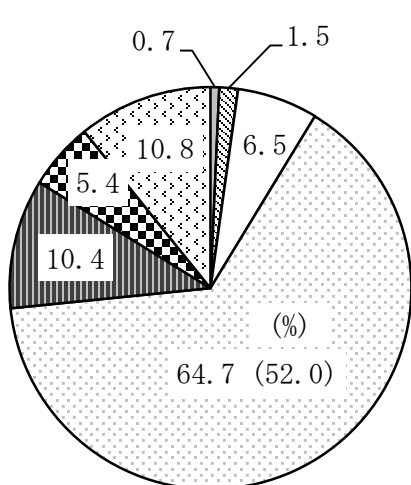


<小学生 高学年>

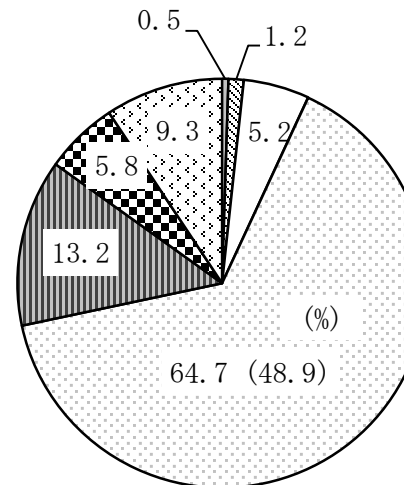


- 1~2,999円
- 3,000~4,999円
- 5,000~9,999円
- 10,000~19,999円
- 20,000~29,999円
- 30,000~49,999円
- 50,000円以上
- 無回答

<中学生>



<高校生>



- 3,000円未満
- 3,000~5,000円未満
- 5,000~10,000円未満
- 10,000~50,000円未満
- 50,000~70,000円未満
- 70,000円以上
- 無回答

(注) () 内は、前回調査 (平成 22 年度) の結果。

3. お金の使い方や管理

(1) おこづかいの使い方 (学年段階別)

- ・おこづかいの使い方をみると、小学生低学年・中学年では「おかしやジュース」、「ゲームソフトやおもちゃ類」(低学年では「おもちゃなど」)、「ゲームをする」が上位にある【図表 10】。小学生高学年では「まんが」の順位が上がり、「ゲームソフトやおもちゃ類」と同程度となっている。
- ・中学生・高校生では「友達との外食・軽食代」、「おやつなどの飲食物」が最上位となり、次いで「友達へのプレゼント」、高校生では「休日に遊びに行くときの交通費」が続いている。

【図表 10】 おこづかいの使い方 (複数回答) : ランキング

順位	小学生		
	低学年 (8 項目中)	中学年 (14 項目中)	高学年 (16 項目中)
1 位	おかしやジュース 〈36〉	おかしやジュース 〈42〉	おかしやジュース 〈50〉
2 位	おもちゃなど 〈32〉	ゲームソフトやおもちゃ類 〈35〉	ゲームソフトやおもちゃ類 〈42〉
3 位	ゲームをする 〈32〉	ゲームをする 〈30〉	まんが 〈42〉
4 位	家の人へのプレゼント 〈24〉	ノートや鉛筆など 〈30〉	本や雑誌 〈34〉
5 位	ノートや鉛筆など 〈23〉	まんが 〈29〉	家の人へのプレゼント 〈34〉
6 位	本や雑誌 〈17〉	家の人へのプレゼント 〈29〉	ゲームをする 〈33〉
7 位	まんが 〈14〉	本や雑誌 〈19〉	ノートや鉛筆など 〈32〉
8 位	友達へのプレゼント 〈13〉	友達へのプレゼント 〈19〉	友達へのプレゼント 〈31〉
9 位	—	休みの日に遊びに行くときの交通費 〈6〉	友達との食事・おやつ代 〈29〉
10 位	—	アクセサリや化粧品など 〈5〉	休みの日に遊びに行くときの交通費 〈13〉

順位	中学生 (27 項目中)	高校生 (27 項目中)
1 位	友達との外食・軽食代 〈77〉	友達との外食・軽食代 〈89〉
2 位	おやつなどの飲食物 〈77〉	おやつなどの飲食物 〈88〉
3 位	友達へのプレゼント 〈71〉	休日に遊びに行くときの交通費 〈79〉
4 位	文房具 〈69〉	友達へのプレゼント 〈79〉
5 位	家の人へのプレゼント 〈68〉	昼食 〈73〉
6 位	休日に遊びに行くときの交通費 〈64〉	家の人へのプレゼント 〈70〉
7 位	ゲーム代 〈61〉	映画やライブのチケット 〈69〉
8 位	小説や雑誌 〈59〉	文房具 〈65〉
9 位	まんが 〈58〉	小説や雑誌 〈60〉
10 位	映画やライブのチケット 〈53〉	まんが 〈57〉

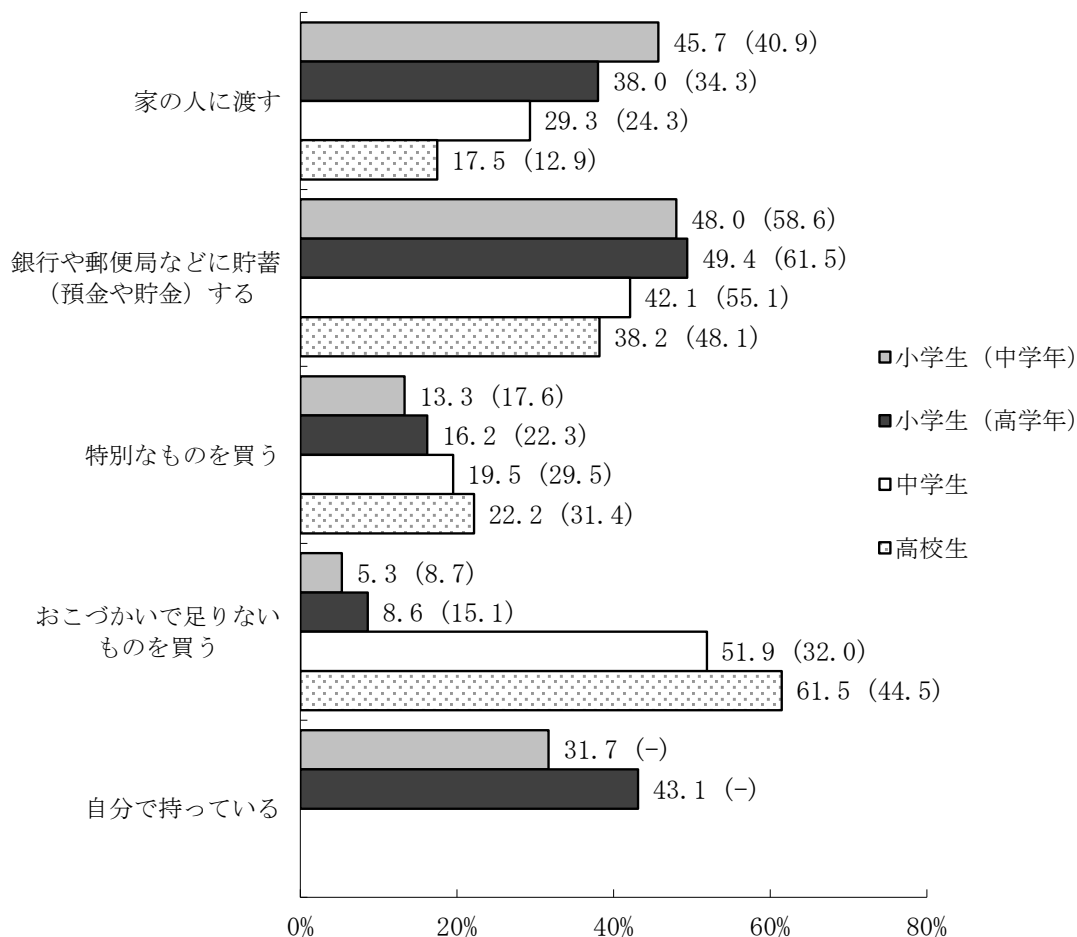
(注 1) 〈 〉 内は、当該項目の回答者の全体に占める割合、% (小数点以下四捨五入)。

(注 2) 中学生と高校生は、おこづかいで買ったり、支払ったりすることが「よくある」と「ときどきある」の合計。

(2) お年玉の取扱い

・もらったお年玉の取扱いをみると、小学生では「銀行や郵便局などに貯蓄（預金や貯金）する」との回答が最も多い。中学生・高校生では、「おこづかいとして管理し、不足する部分にあてる」が多い【図表 11】。

【図表 11】 お年玉の取扱い（複数回答）



(注1) () 内は、前回調査（平成 22 年度）の結果。

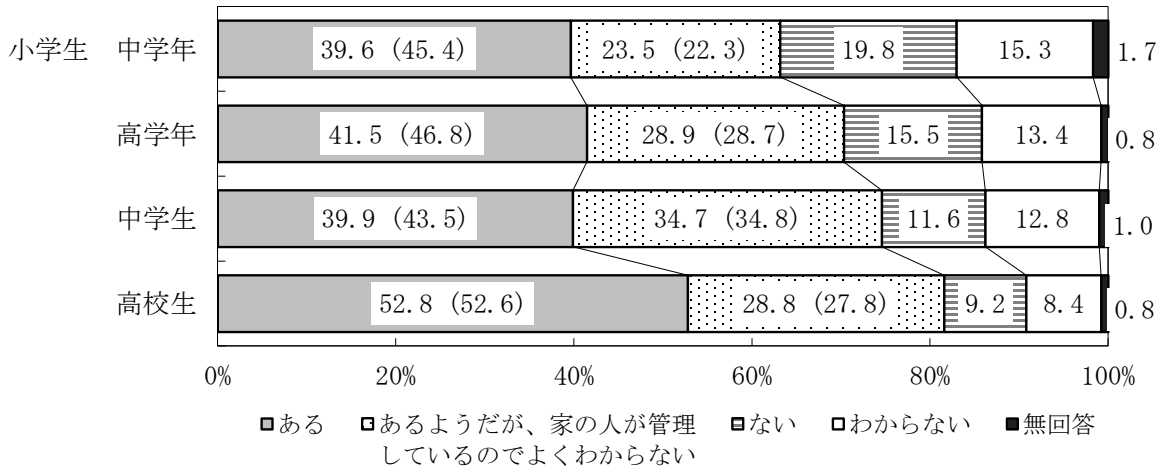
(注2) 中学生と高校生の「特別なものを買う」は、「特別なものを購入したり、特別な支払いにあてる」の回答者。

(注3) 中学生と高校生の「おこづかいで足りないものを買う」は、「おこづかいとして自分で管理し、不足する部分にあてる」の回答者。

(3) 自分の貯蓄の有無や貯蓄方法

- ・自分の貯蓄についてみると、「ある」との回答が4～5割となっている【図表12】。
- ・「あるようだが、家の人管理している（小学生は「している」）のでよくわからない」との回答は、2～3割となっている。

【図表12】自分の貯蓄の有無

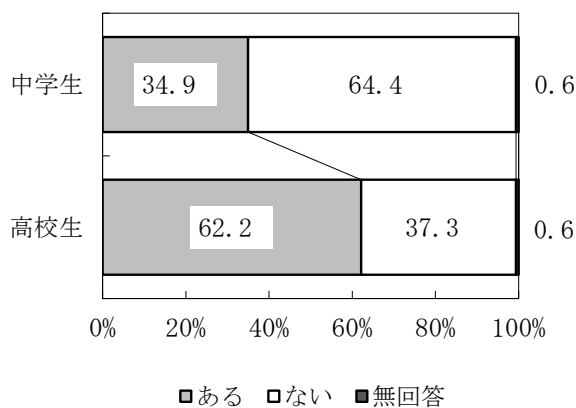


(注1) 「銀行や郵便局などに、自分の貯蓄（預金や貯金）がありますか」に対する回答。

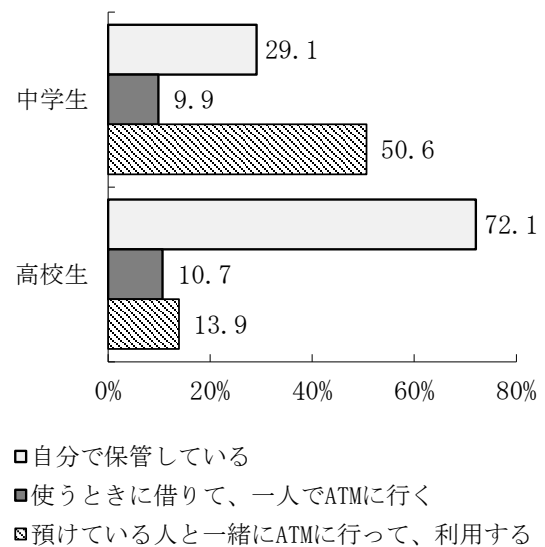
(注2) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

- ・ATMを利用したことが「ある」との回答は、中学生で3割強、高校生で約6割となっている【図表13】。
- ・キャッシュカードを「自分で保管している」との回答は中学生で約3割、高校生で約7割、中学生は約5割が「預けている人と一緒にATMに行き、利用する」と回答している【図表14】。

【図表13】ATMの利用経験

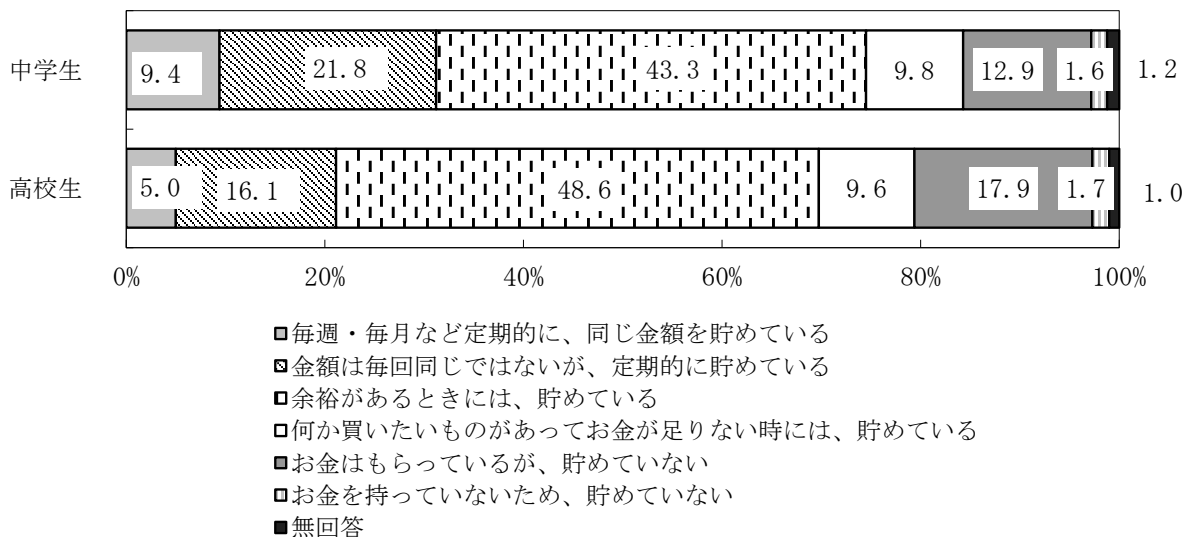


【図表14】キャッシュカードの保管方法



・「定期的に貯蓄している」との回答は、「毎週・毎月など定期的に」と「金額は毎回同じではないが定期的に」を合わせて、中学生で約3割、高校生で約2割となっている【図表15】。

【図表15】貯蓄する方法



・「定期的に貯蓄している」との回答者は、「おこづかひの使い方について、計画を立てている」、「おつりをもらったら、確認している」、「レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている」割合が高く、「お金はもらっているが、貯めていない」との回答者は、「『欲しい』と思ったものは、すぐを買ってしまう」割合が高い【図表16】。

【図表16】貯蓄する方法とお金に関する行動

	そうしている (%)		
	全体	Aグループ	Bグループ
おこづかひの使い方について、計画を立てている	33.5	52.3	15.6
	30.7	53.6	16.0
おつりをもらったら、確認している	64.9	72.7	52.2
	61.2	70.7	53.1
レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている	53.0	64.0	39.8
	46.0	60.0	35.7
	あてはまらない		
	全体	Aグループ	Bグループ
「欲しい」と思ったものは、すぐを買ってしまう	38.8	53.9	24.5
	34.2	45.7	25.3

(注) Aグループ：「毎週・毎月など定期的に、同じ金額を貯めている」との回答者。

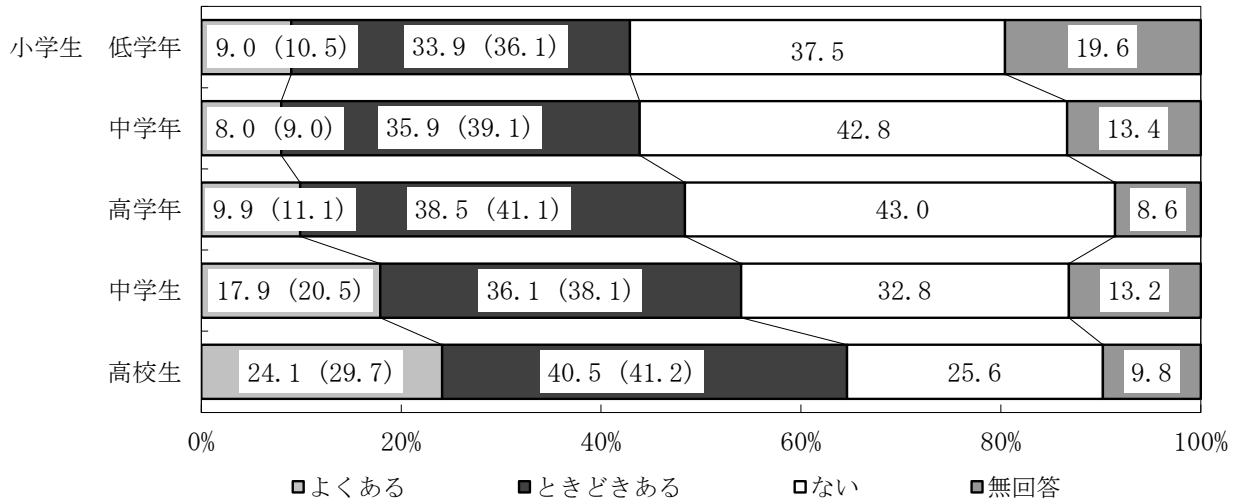
Bグループ：「お金はもらっているが、貯めていない」との回答者。

上段は中学生、下段は高校生。

(4) おこづかいが不足した経験、不足したときの対応

・おこづかいが不足した経験をみると、「ある」（「よくある」と「ときどきある」の合計）は、小学生低学年・中学年で4割強、小学生高学年で約5割、中学生・高校生で5～6割となっている【図表17】。

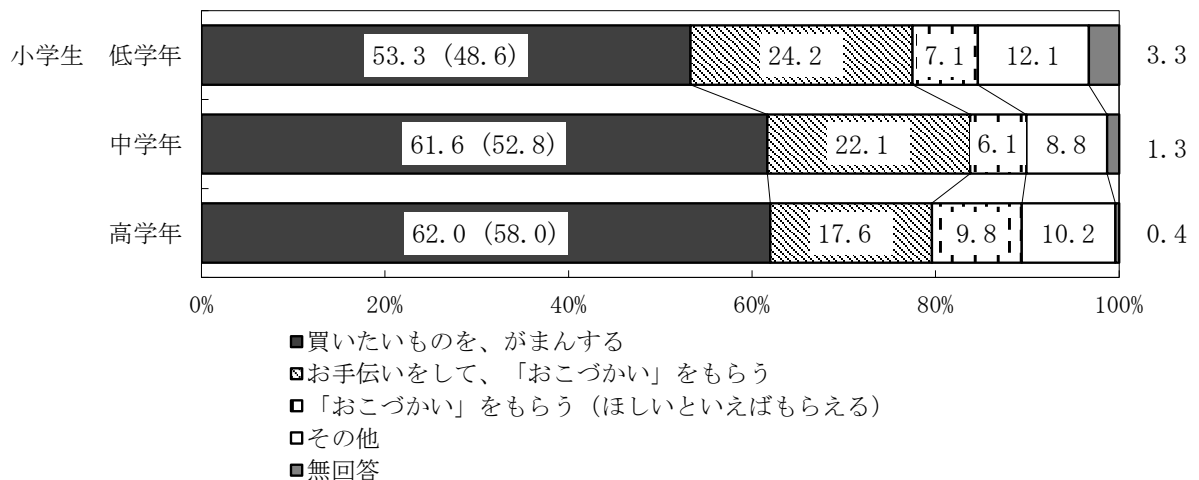
【図表17】 おこづかいが不足した経験



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

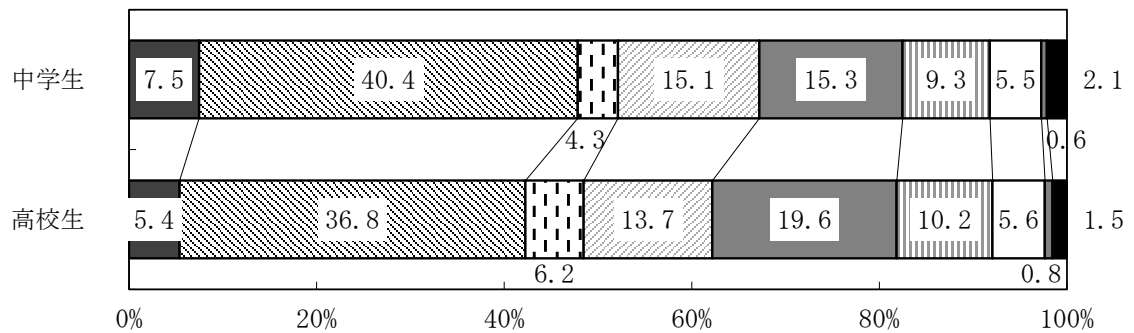
・おこづかいが不足したときの対応をみると、小学生では、「買いたいものを、がまんする」が最も多く、5～6割となっている【図表18】。
 ・おこづかいが不足したときの対応を中学生・高校生についてみると、「次の『おこづかい』までがまんし、節約する」（今回調査で新たに設定）が最も多く、4割前後となっている。前回調査で4割前後の回答であった「買いたいものをあきらめる」は1割未満と少数になっている【図表19】。

【図表18】 おこづかいが不足したときの対応（小学生）



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

【図表 19】 おこづかいが不足したときの対応（中学生・高校生）

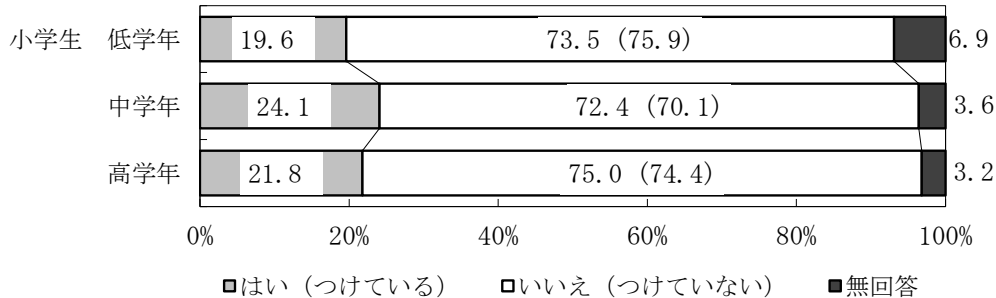


- 「おこづかい」で買いたいものをあきらめる
- ▣ 次の「おこづかい」までがまんし、節約する
- 手伝いやアルバイトなどをして、お金を手に入れる
- 親などの保護者や祖父母などからお金をもらう
- 貯めておいた「おこづかい」やお年玉などのお金を使う
- ▣ 次の「おこづかい」（翌月分など）を前借りする
- 親などの保護者・兄弟姉妹から借りる
- 友達から借りる
- 無回答

(5) 「おこづかい帳」

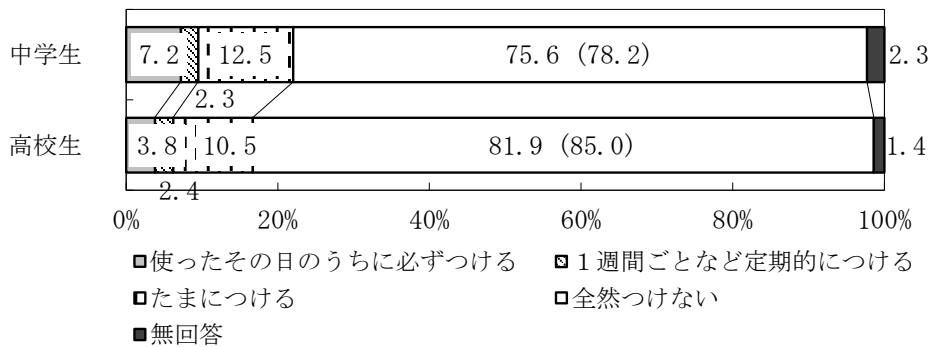
・「おこづかい帳」をつけているのは、小学生で2割前後、中学生で約2割、高校生で2割弱となっている【図表20】【図表21】。

【図表20】「おこづかい帳」をつけているか（小学生）



(注) () 内は、前回調査 (平成22年度) の結果。

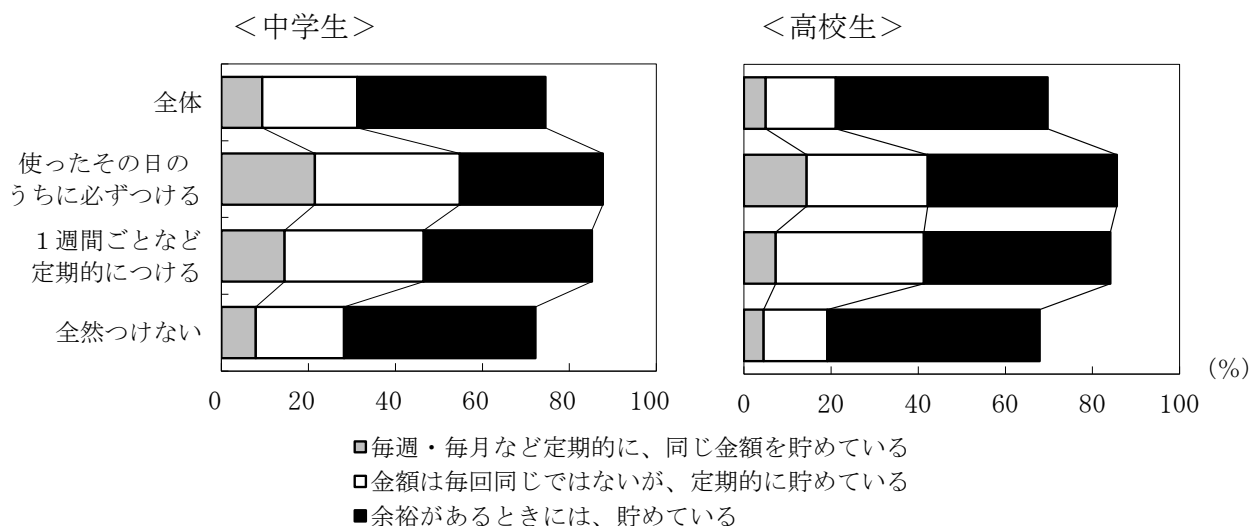
【図表21】「おこづかい帳」をつけているか（中学生・高校生）



(注) () 内は、前回調査 (平成22年度) の結果。

・おこづかい帳を「使ったその日のうちに必ずつける」、「1週間ごとなど定期的につける」との回答者は、「毎週・毎月など定期的に同じ金額を貯めている」、「金額は毎回同じではないが、定期的に貯めている」との回答割合が高くなっている【図表22】。

【図表22】おこづかい帳の記帳と貯蓄する方法



Ⅱ 携帯電話・スマートフォン、インターネット、電子マネー、トラブル等の経験

1. 持ち物

(1) 自分専用の持ち物

- ・自分専用の持ち物についてみると、「携帯電話（いわゆるガラケー）」（小学生では「携帯電話」）を持っているとの回答は、小学生中学年・高学年は約3割、中学生は約2割、高校生は約1割、「スマートフォン」を持っているとの回答は小学生は1～2割と携帯電話より少なく、中学生は約5割、高校生は9割強と携帯電話より多くなっている【図表23】。
- ・「パソコン・タブレット端末」（小学生では「パソコン」）を持っているとの回答は、小学生中学年は1割弱、高学年は約1割、中学生・高校生は約3割となっている。
- ・「ゲーム機」を持っているとの回答は、小学生と中学生は8割前後、高校生は7割弱となっている。
- ・前回調査と比較すると、携帯電話を持っているという回答が小学生で増加しているが、中学生・高校生は大きく減少している。また、中学生はテレビ・ゲーム機、高校生ではテレビを持っているとの回答は減少し、一方、パソコン・タブレット端末を持っているとの回答は中学生・高校生ともに増加している。
- ・なお、男女別にみると、全体として男子はテレビ・パソコン・ゲーム機を持っているとの回答が多く、女子は携帯電話・スマートフォンを持っているとの回答が多い。

【図表23】自分専用の持ち物（複数回答）

(%)

		テレビ	携帯電話（いわゆるガラケー）	スマートフォン	パソコン・タブレット端末	ゲーム機
小学生	中学年 全体	6.0 (9.4)	29.7 (20.8)	12.1 (-)	6.4 (8.2)	79.6 (81.1)
	男子	7.1 (11.4)	26.3 (18.3)	13.2 (-)	7.2 (8.8)	84.0 (85.9)
	女子	4.8 (7.1)	33.0 (23.2)	10.9 (-)	5.7 (7.6)	75.2 (75.9)
	高学年 全体	9.6 (12.8)	29.8 (23.7)	22.0 (-)	8.1 (10.5)	84.8 (87.8)
	男子	11.2 (14.9)	26.3 (19.3)	20.7 (-)	8.9 (11.0)	88.6 (92.3)
	女子	7.9 (10.8)	33.4 (28.3)	23.3 (-)	7.2 (9.8)	81.0 (83.4)
中学生	全体	16.3 (19.0)	19.8 (57.5)	48.6 (-)	30.4 (14.9)	77.2 (81.1)
	男子	19.0 (23.6)	18.3 (49.7)	43.5 (-)	32.8 (16.2)	84.6 (88.8)
	女子	13.5 (14.2)	21.2 (65.4)	53.7 (-)	28.1 (13.6)	69.5 (73.3)
高校生	全体	22.9 (30.8)	11.3 (96.5)	93.7 (-)	27.5 (22.1)	66.5 (66.1)
	男子	29.0 (39.2)	12.5 (95.4)	92.4 (-)	32.4 (26.6)	80.6 (84.6)
	女子	18.0 (24.1)	10.3 (97.4)	94.8 (-)	23.6 (18.5)	55.2 (51.7)

(注1) ()内は、前回調査（平成22年度）の結果。

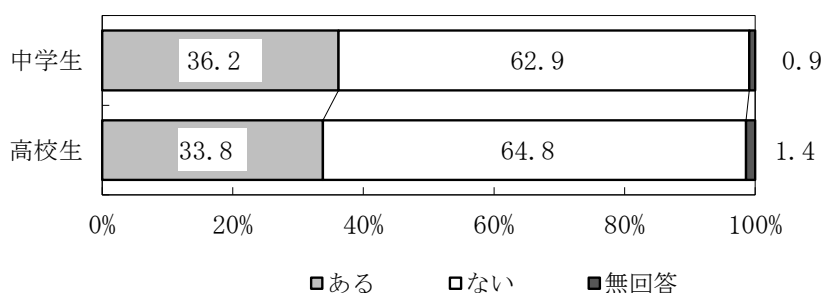
(注2) 「携帯電話（いわゆるガラケー）」は、前回調査では「携帯電話（ケータイ）」。

(注3) 「パソコン・タブレット端末」は、前回調査では「パソコン」。

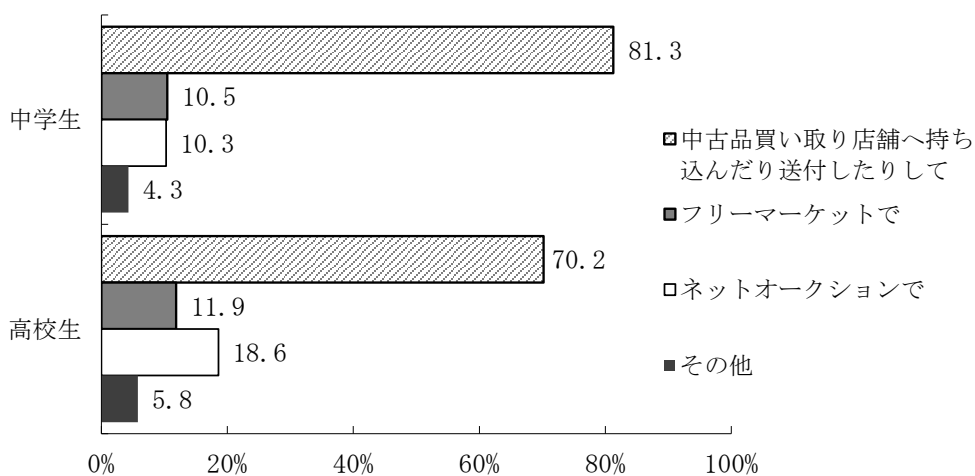
(2) 持ち物を売る経験

- ・この1年間で自分の持ち物を売ったことが「ある」のは、中学生の4割弱、高校生の3割強となっている【図表24】。
- ・売り方は、「中古品買い取り店舗へ持ち込んだり送付したりして」が中学生で約8割、高校生で約7割となっている【図表25】。また、売ったことがあるものは、中学生は「プラモデル・ゲームカセット等の玩具類」、「本・マンガ・参考書など」が約6割、高校生は「本・マンガ・参考書など」が6割強となっている【図表26】。

【図表24】自分の持ち物を売った経験



【図表25】持ち物を売った方法（複数回答）



【図表26】売ったことがあるもの（複数回答）

順位	中学生（7項目中）	高校生（7項目中）
1位	プラモデル・ゲームカセット等の玩具類〈60〉	本・マンガ・参考書など〈63〉
2位	本・マンガ・参考書など〈56〉	プラモデル・ゲームカセット等の玩具類〈46〉
3位	衣類・くつなど身に着けるもの〈23〉	衣類・くつなど身に着けるもの〈28〉

（注）〈 〉内は、当該項目の回答者の全体に占める割合、%（小数点以下四捨五入）。

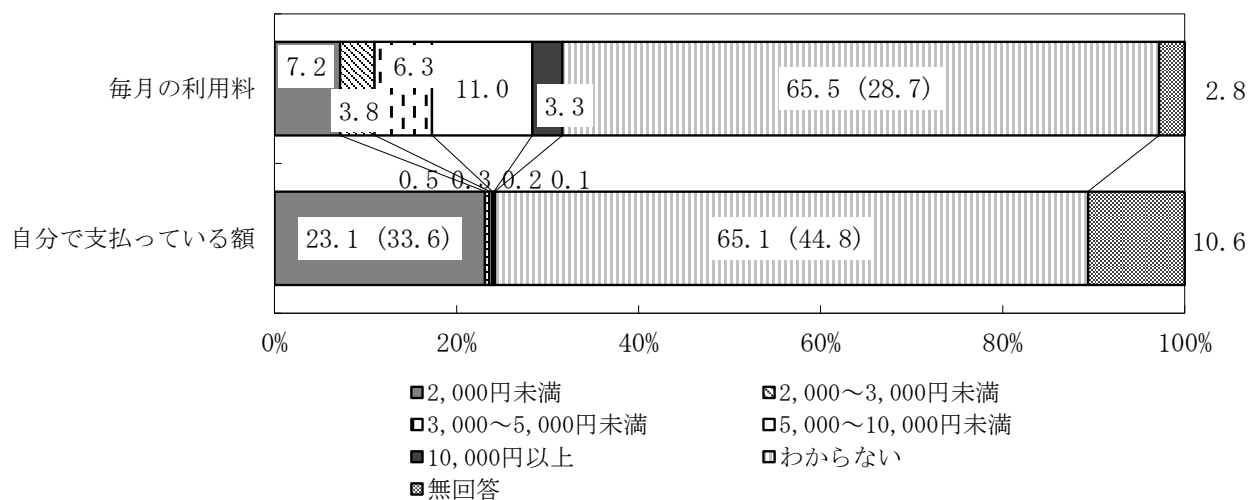
2. 携帯電話やスマートフォン

(1) 携帯電話やスマートフォンの利用料、支払額

- ・携帯電話やスマートフォンの毎月の利用料は、「5,000～10,000円未満」との回答が最も多く、中学生の約1割、高校生の約3割となっているが、中学生の7割弱、高校生の約5割は「わからない」としており、前回調査比、大幅に増加している【図表27】。
- ・利用料のうち、自分で支払っている額は、中学生の2割強、高校生の約3割が「2,000円未満」と回答しているが、「わからない」が最も多くなっている。

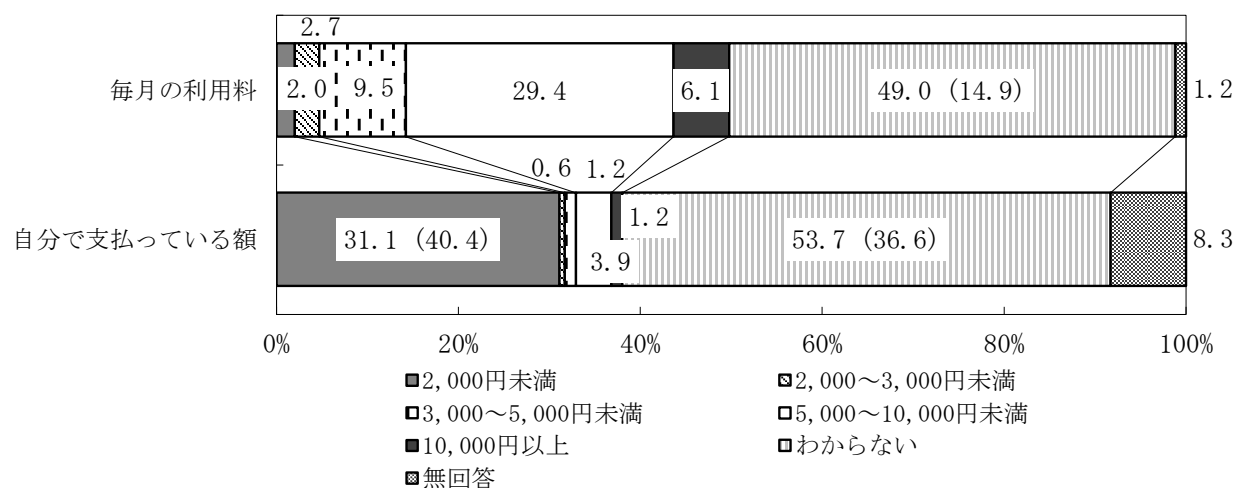
【図表27】 携帯電話やスマートフォンの利用料と自分で支払っている額

<中学生>



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<高校生>

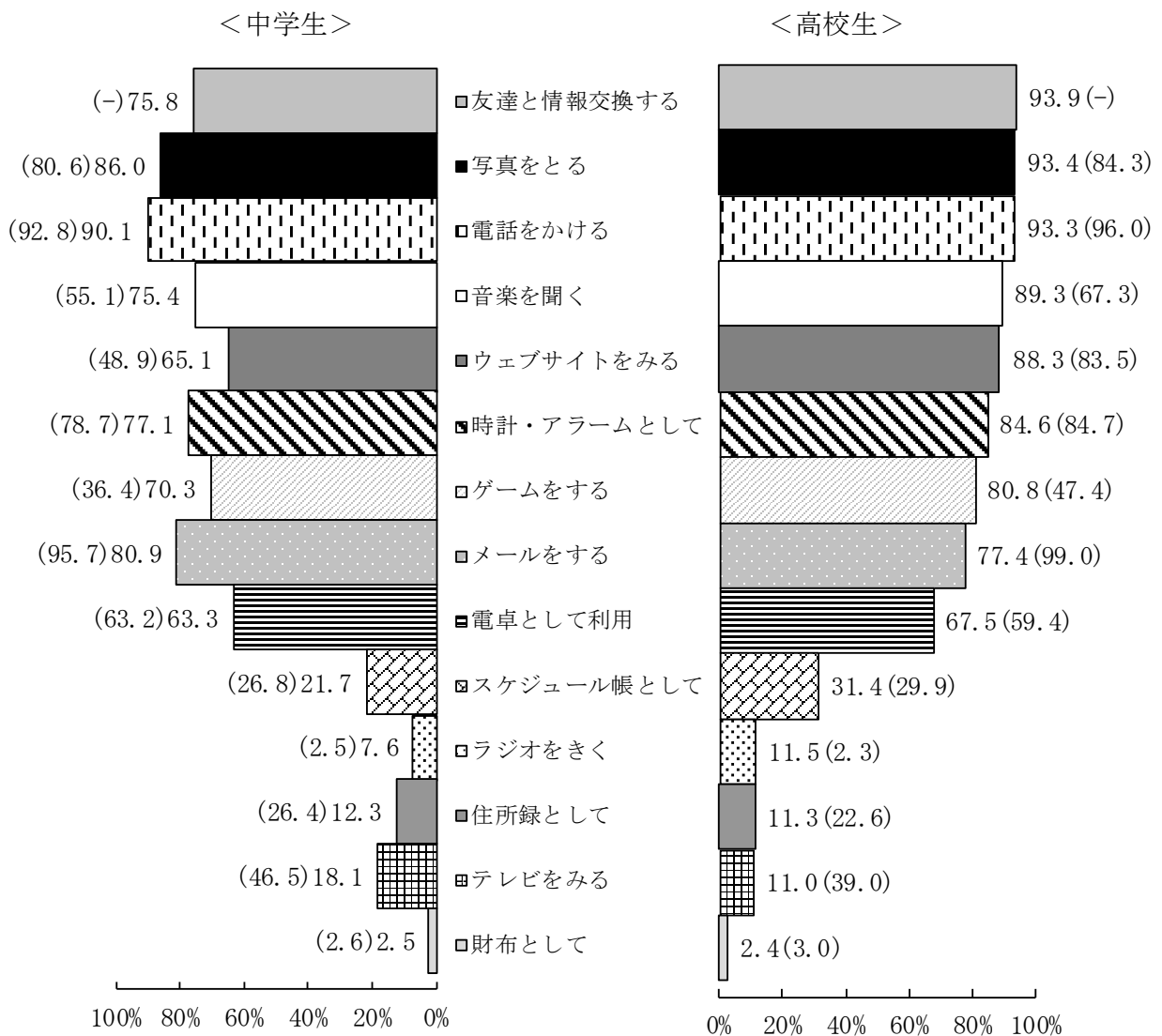


(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

(2) 携帯電話やスマートフォンの利用方法

- ・携帯電話やスマートフォンの利用方法についてみると、中学生では「電話をかける」、高校生では「友達と情報交換する」、「写真をとる」、「電話をかける」との回答が9割以上となっている。「ウェブサイトを見る」との回答は、中学生の7割弱、高校生の約9割となっている【図表28】。
- ・前回調査と比較すると、「音楽を聞く」、「ウェブサイトを見る」、「ゲームをする」が大幅に増加しており、「メールをする」、「テレビをみる」は減少している。

【図表28】携帯電話やスマートフォンの利用方法（複数回答）



(注1) 「友達と情報交換する」は「友達と情報交換するとき（例えば、LINE など）」の回答者。

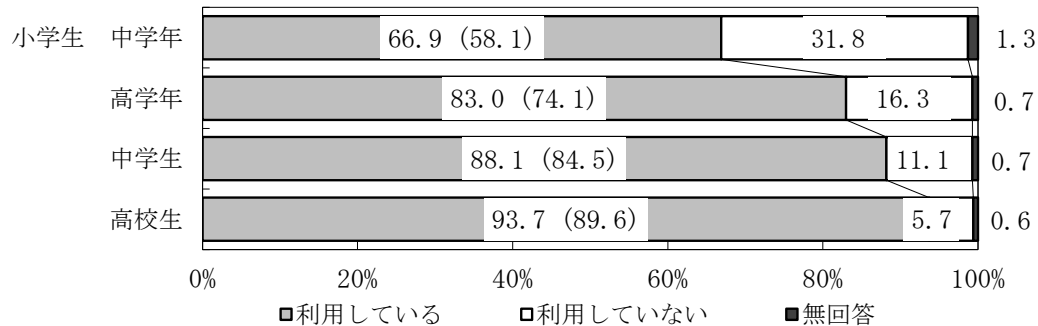
(注2) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

3. インターネット

(1) インターネットの利用状況

・インターネットの利用状況を見ると、小学生中学年の7割弱、高学年の8割強、中学生の約9割、高校生の9割強が「利用している」と回答している【図表29】。

【図表29】 インターネットの利用状況



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

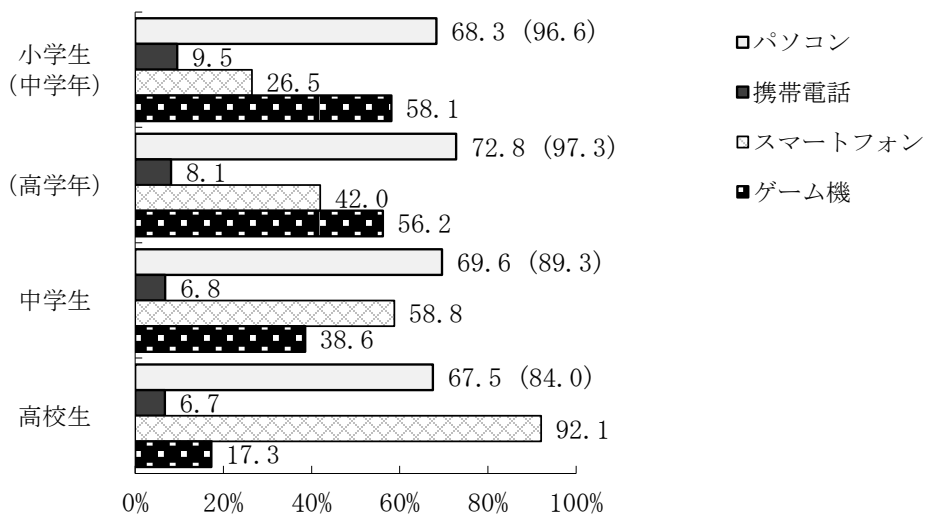
(2) インターネットの利用媒体、利用場所

・インターネットを利用している場合の媒体をみると、小学生（中学年・高学年）・中学生・高校生で、7割前後が「パソコン」から利用していると回答。「ゲーム機」から利用しているのは、小学生（中学年・高学年）で6割程度となっている。「スマートフォン」から利用しているのは、中学生で約6割、高校生で約9割となっている【図表30】。

・パソコンからインターネットを利用している場合のパソコンの利用場所をみると、「自宅」が7～9割と最も多く、「学校」は小学生（中学年・高学年）は5割程度、中学生は約2割、高校生は約3割となっている。

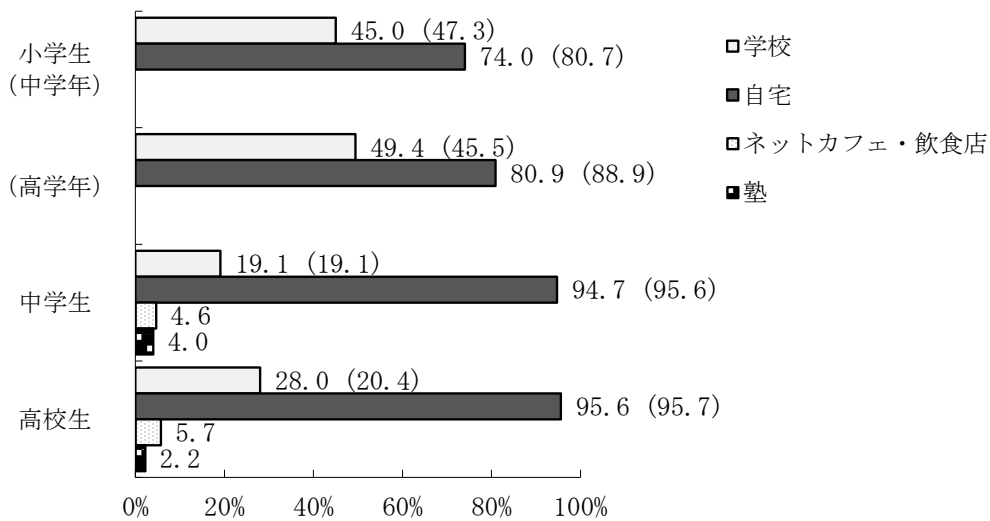
【図表30】 インターネットの利用媒体、利用場所（ともに複数回答）

<利用媒体>



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<パソコンの利用場所>



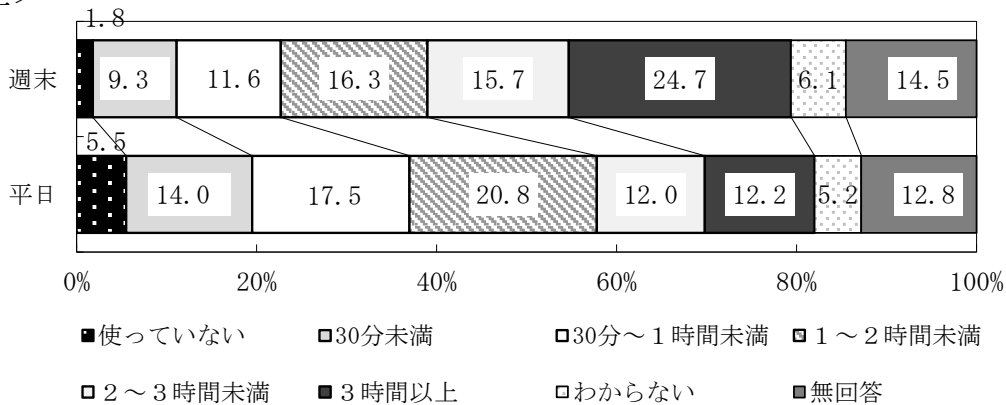
(注) () 内は、前回調査(平成22年度)の結果。

(3) インターネットの利用時間

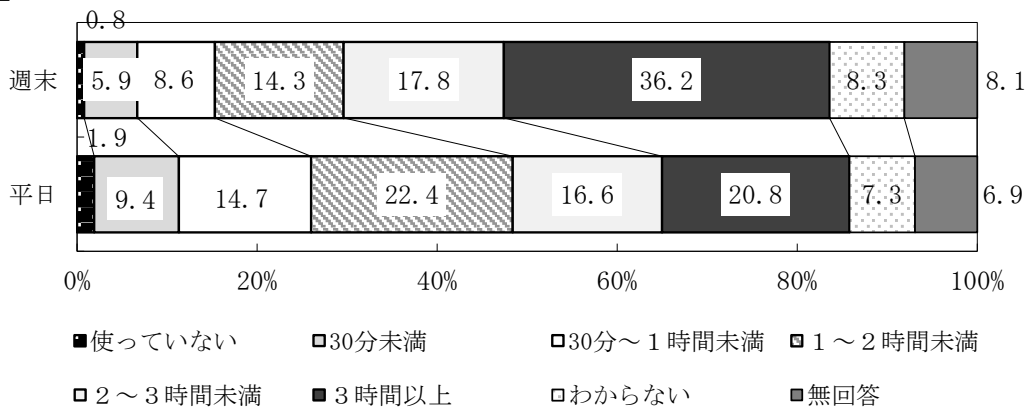
・インターネットの利用時間をみると、中学生・高校生とも、週末は「3時間以上」、平日は「1～2時間未満」が最も多い【図表31】。

【図表31】 インターネットの利用時間

<中学生>



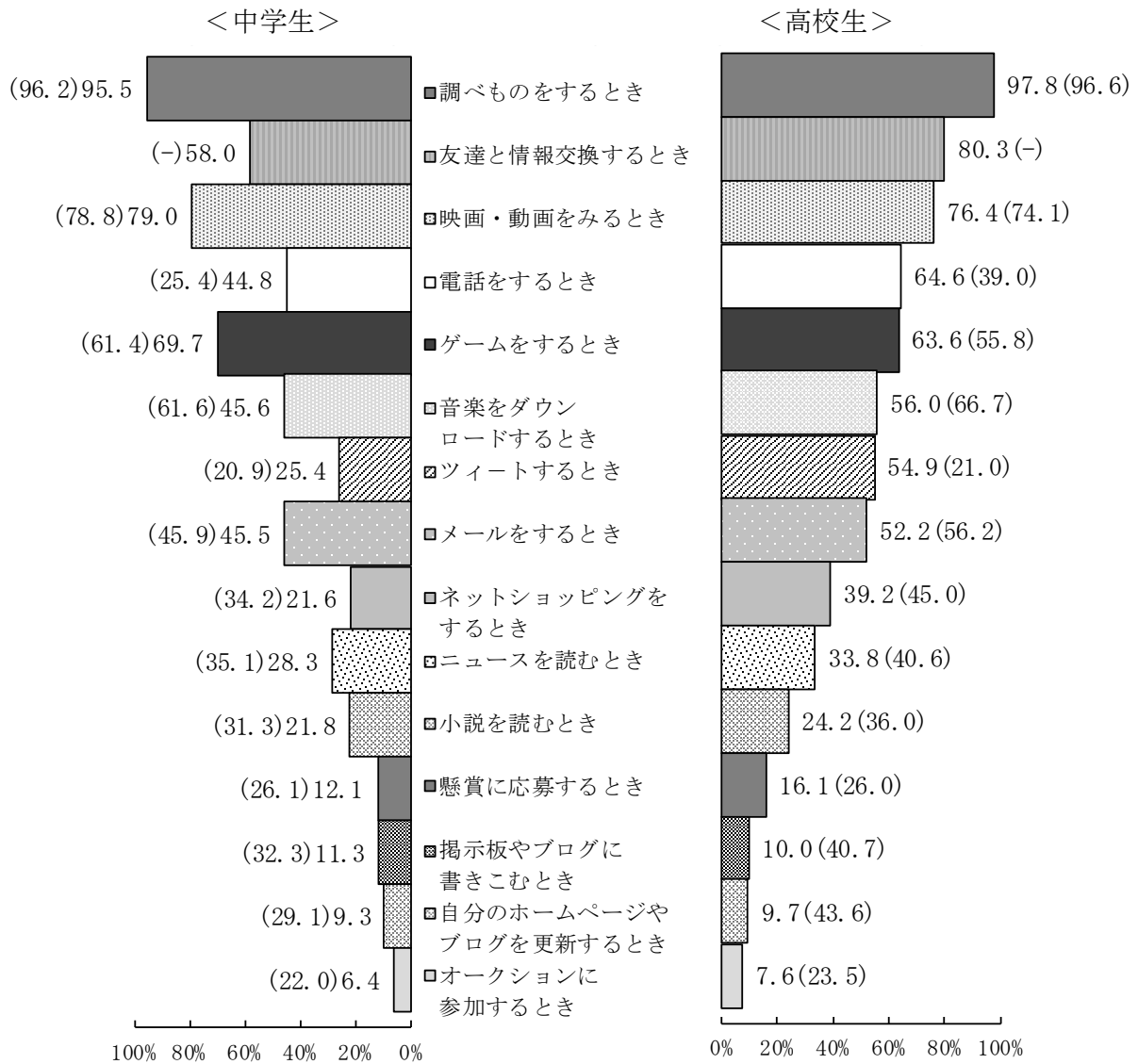
<高校生>



(4) インターネットの利用目的（用途）

- ・インターネットの利用目的をみると、中学生・高校生とも、「調べものをするとき」が最も多い。「友達と情報交換するとき」は中学生が約6割、高校生が約8割となっている【図表32】。
- ・前回調査と比較すると、「電話をするとき」、「ゲームをするとき」、「ツイートするとき」で、「利用している」割合が増加している。

【図表32】 インターネットの利用目的（複数回答）



(注1) 「どのようなときに利用しているか」への回答。

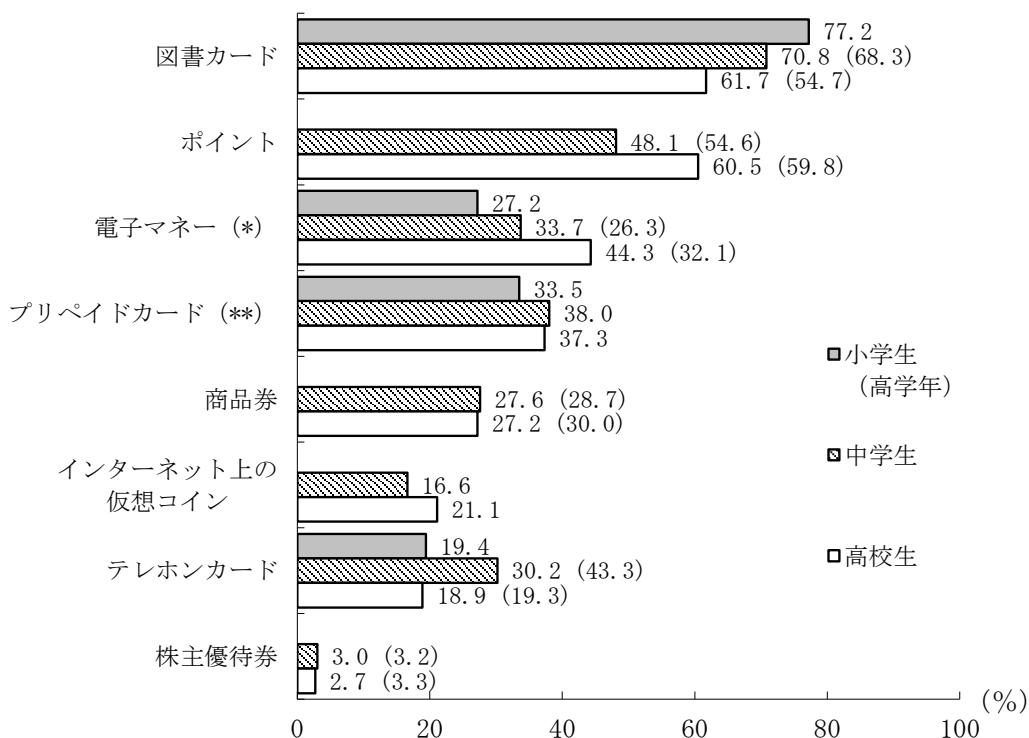
(注2) 「友達と情報交換するとき」は「友達と情報交換するとき（例えば、LINE など）」の回答者。

(注3) ()内は、前回調査（平成22年度）の結果。

4. 電子マネー等

- ・電子マネー等の利用状況を見ると、小学生（高学年）では8割弱、中学生は約7割、高校生は約6割と「図書カード」の利用が圧倒的に多い。これに続き、小学生は「プリペイドカード」、「電子マネー」を3割前後が利用している。中学生では「ポイント」が約5割、「プリペイドカード」が約4割、高校生では「ポイント」が約6割、「電子マネー」が4割強、「プリペイドカード」が4割弱となっている【図表33】。
- ・利用状況を地域別にみると、地域によって利用度合いが異なっている【図表34】。

【図表33】電子マネーほかの利用状況（複数回答）



* 例えば、Suica、PASMO、ICOCA、TOICA、manaca、Kitaca、SUGOCA、nimoca、はやかけん、Edy、WAON、nanaco、など。

** 例えば、iTunes カード、モバコインカード、Amazon ギフトカード、HMV ギフトカードなど。

(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

【図表34】電子マネー等の地域別利用状況

<全国と地域別>

(%)

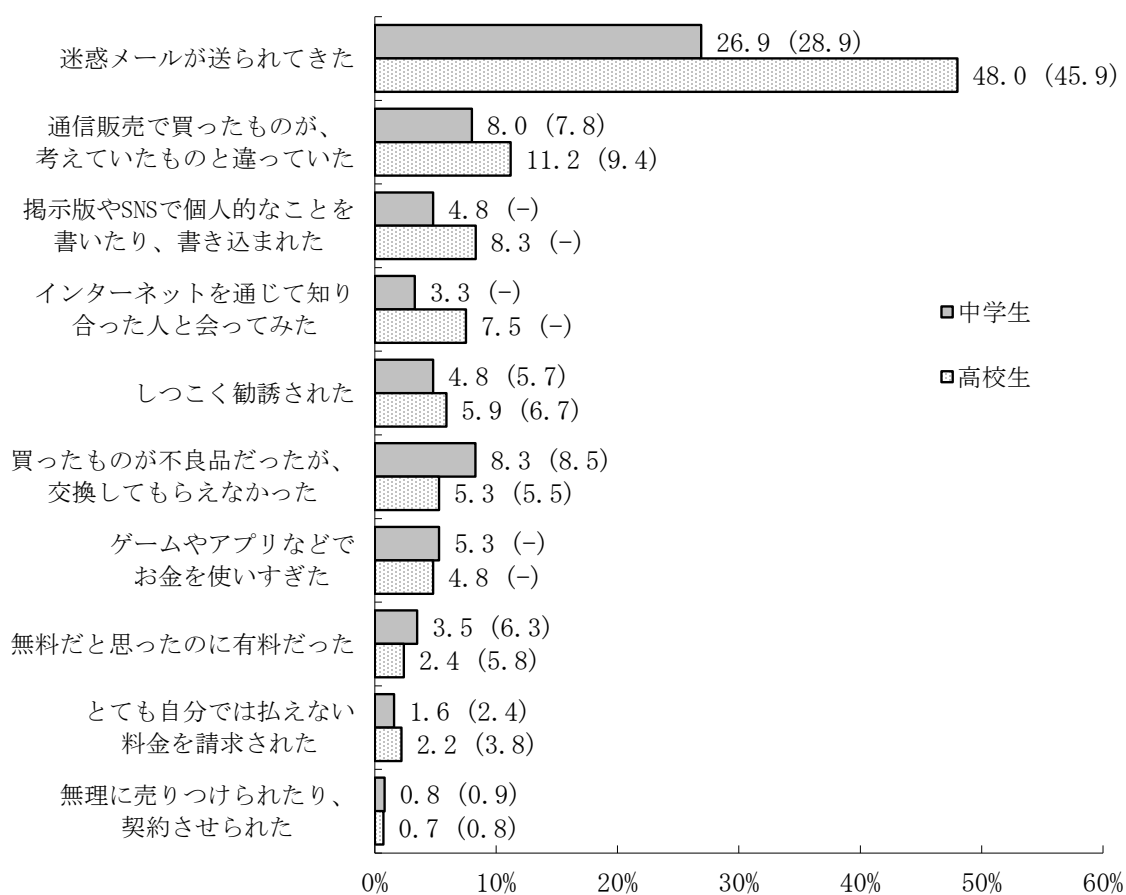
	小学生（高学年）		中学生		高校生	
	全国	地域別の最大値	全国	地域別の最大値	全国	地域別の最大値
図書カード	77.2	北陸 85.2	70.8	四国 78.9	61.7	四国 69.0
ポイント	—	—	48.1	北海道 53.0	60.5	関東 63.3
電子マネー	27.2	関東 51.3	33.7	関東 50.5	44.3	関東 66.7
プリペイドカード	33.5	北海道 46.7	38.0	東北 44.2	37.3	東北 40.8
テレホンカード	19.4	九州 24.6	30.2	北陸 55.9	18.9	四国 25.3

(注) 「利用している」と回答した割合。

5. トラブル等の経験

- ・トラブル等の経験についてみると、中学生・高校生ともに「迷惑メールが送られてきた」との回答が最も多く、中学生で3割弱、高校生で約5割となっている【図表 35】。
- ・次いで回答が多いのは、中学生では、「買ったものが不良品だったが、交換してもらえなかった」、「通信販売で買ったものが、考えていたものと違っていた」、「ゲームやアプリなどでお金を使いすぎた」、高校生では、「通信販売で買ったものが、考えていたものと違っていた」、「掲示板や SNS で個人的なことを書いたり、書き込まれた」、「インターネットを通じて知り合った人と会ってみた」の順となっている。
- ・また、「インターネットを通じて知り合った人と会ってみた」、「掲示板や SNS で個人的なことを書いたり、書き込まれた」は、中学生・高校生ともに1割未満であるが、経験をしたことがあるとの回答となっている。

【図表 35】 トラブル等の経験（複数回答）



(注) () 内は、前回調査（平成 22 年度）の結果。

Ⅲ 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト

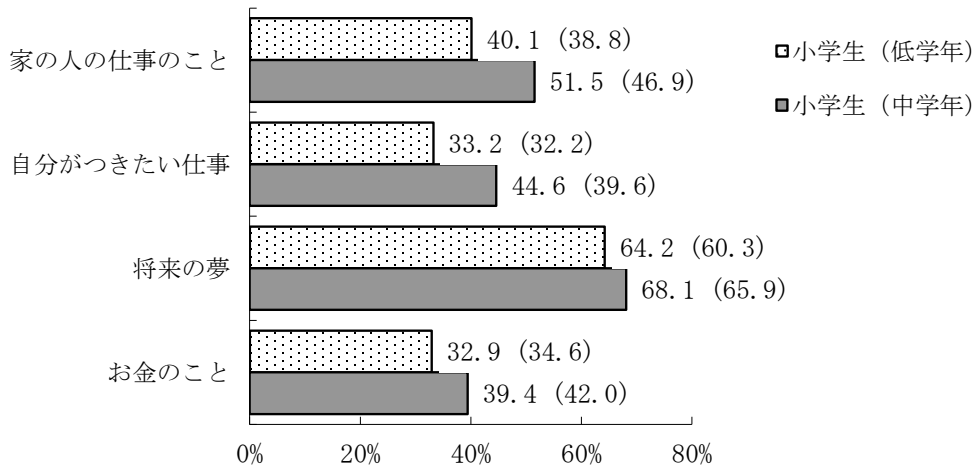
1. 家の人との会話

(1) 小学生

- ・家の人との会話についてみると、「話をしたことがある」ものは、小学生低学年と中学年では、「将来の夢」、「家の人の仕事のこと」、「自分がつきたい仕事」、「お金のこと」の順となっている。うち「将来の夢」は6割を超えている【図表 36】。
- ・小学生高学年では、「よく話をする」、「ときどき話をする」の合計でみると、「家の人の仕事のこと」、「将来の夢」、「お金のこと」、「自分がつきたい仕事」の順となっている。いずれも6～7割となっている。

【図表 36】家の人との会話（小学生）

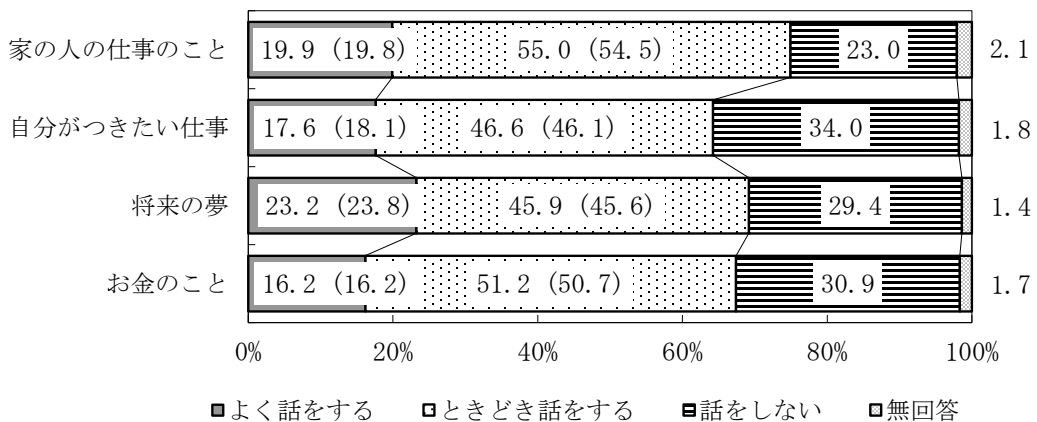
<小学生 低学年・中学年、複数回答>



(注1) 「話をしたことがある」割合。

(注2) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<高学年>



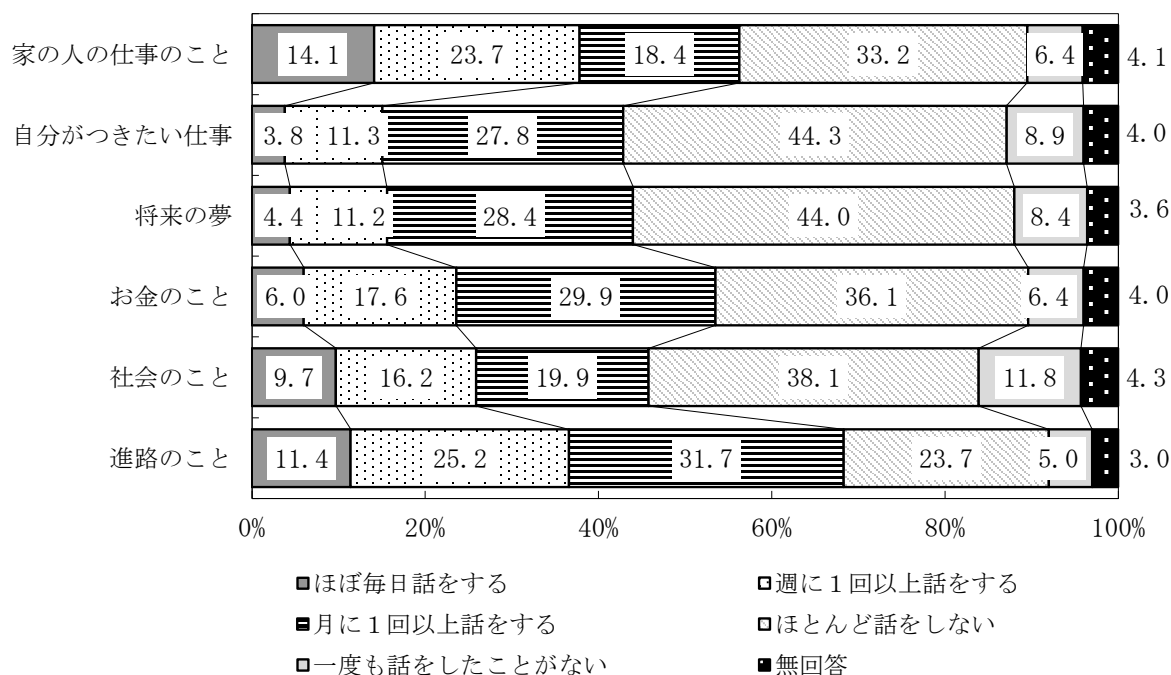
(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

(2) 中学生・高校生

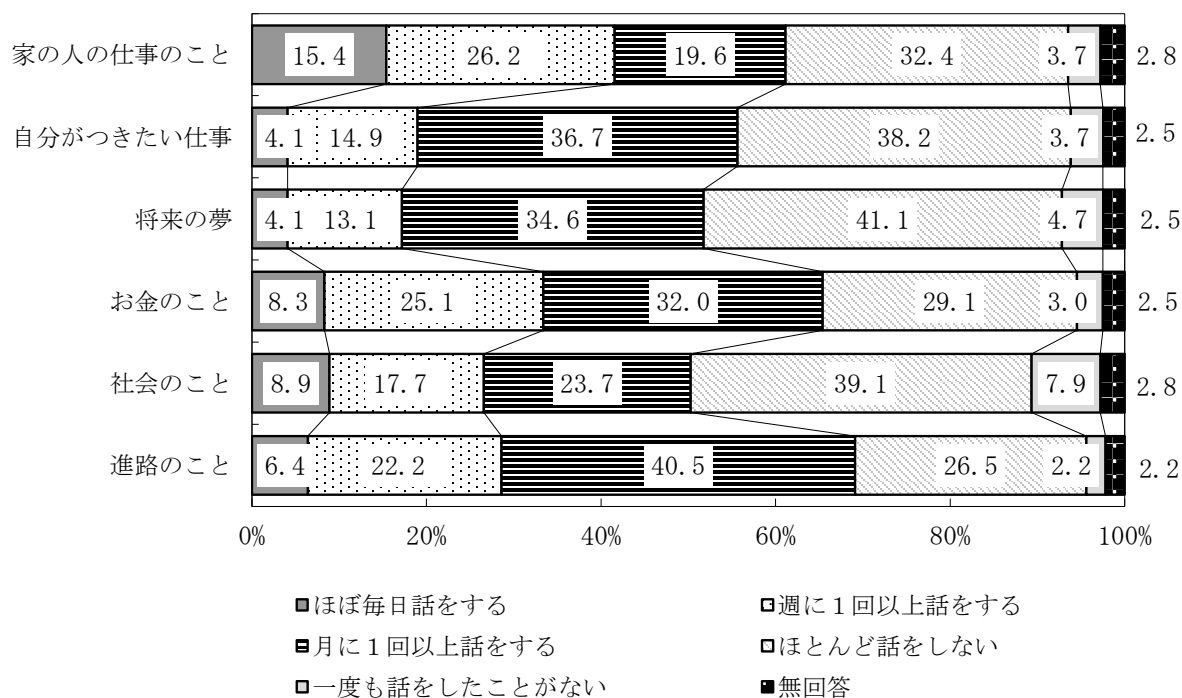
- ・「ほぼ毎日話をする」、「週に1回以上話をする」の合計でみると、中学生では、「家の人の仕事のこと」、「進路のこと」、「社会のこと」の順、高校生では、「家の人の仕事のこと」、「お金のこと」、「進路のこと」の順となっている【図表37】。
- ・中学生と高校生とを比べると、高校生では、「お金のこと」を話しているとの回答が、中学生よりも多い。

【図表37】 家の人との会話（中学生・高校生）

<中学生>



<高校生>

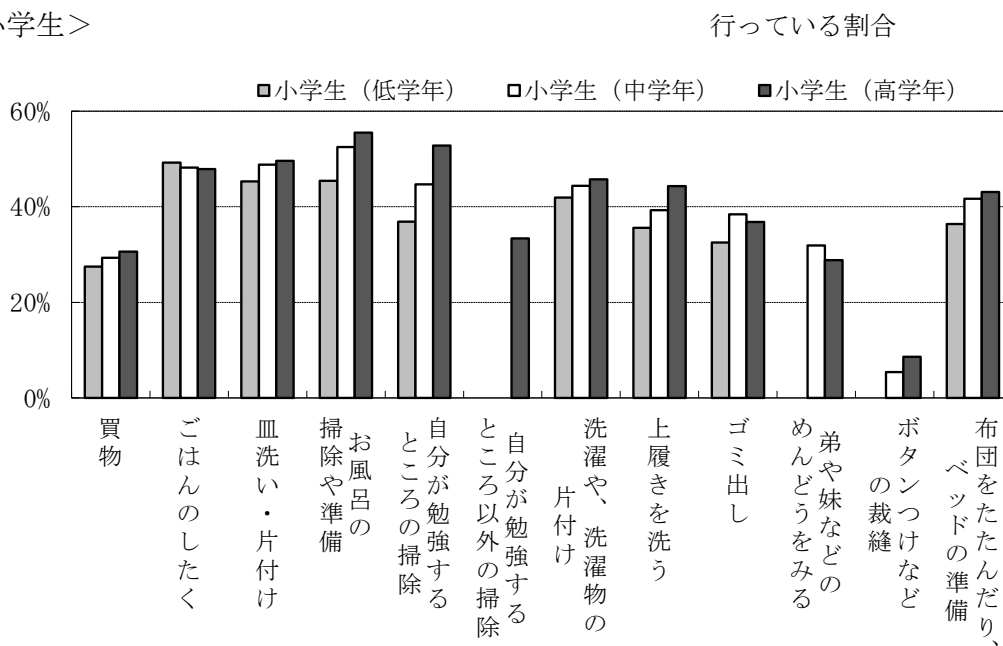


2. 家事・手伝い

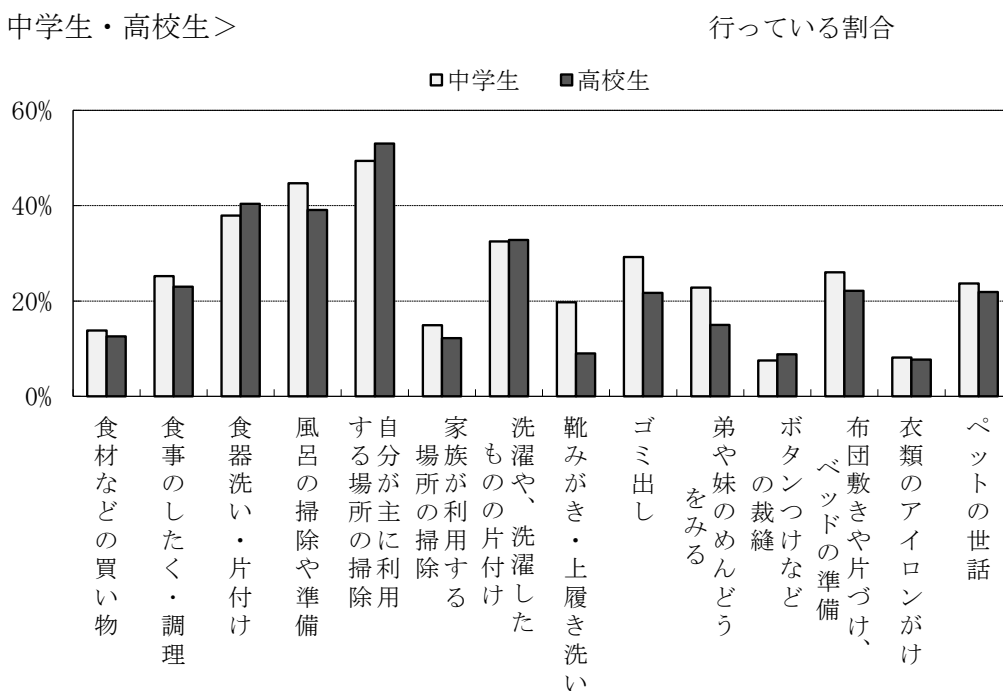
- ・家事・手伝いの状況をみると、小学生・中学年・高学年では「お風呂の準備・掃除」をしているとの回答が5割を超えているほか、高学年では「自分が勉強するところの掃除」も5割を超えている【図表38】。
- ・中学生・高校生では、「自分が主に利用する場所の掃除」が5割前後となっているが、全体としてみると、家事・手伝いをしている割合は小学生・高学年よりも低くなっている。

【図表38】家事・手伝いの状況（複数選択）

<小学生>



<中学生・高校生>

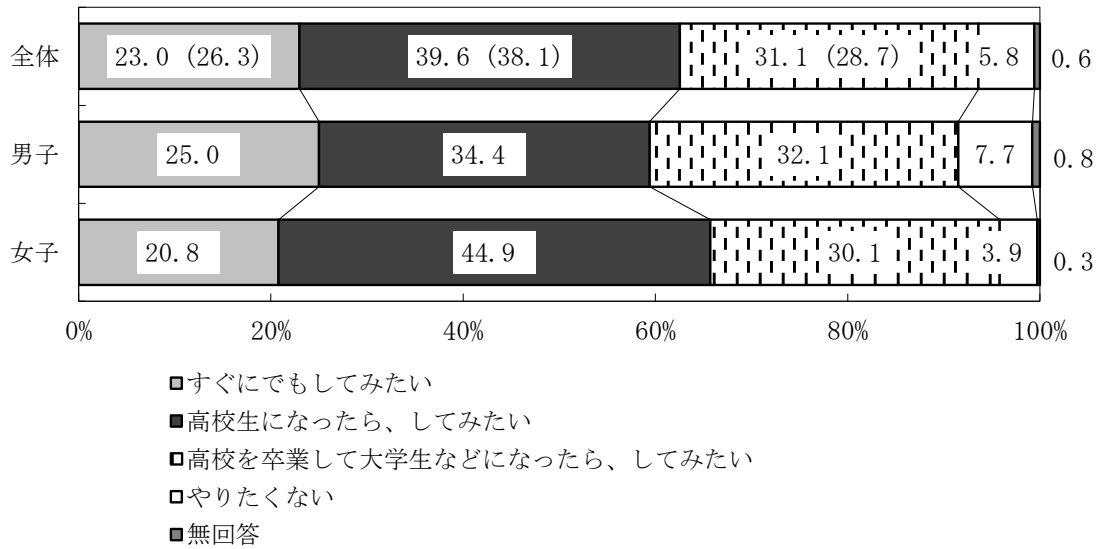


3. アルバイト

- ・アルバイトは、中学生では、「すぐにでもしてみたい」が2割強、「高校生になったら、してみたい」が約4割となっている【図表39】。
- ・高校生では、「アルバイトをしてみたいが、したことはない」が約4割、「自分で使うお金のためにアルバイトをしている（したことがある）」が約2割となっている。なお、アルバイトが禁止されている場合は「無回答」に分類されている。

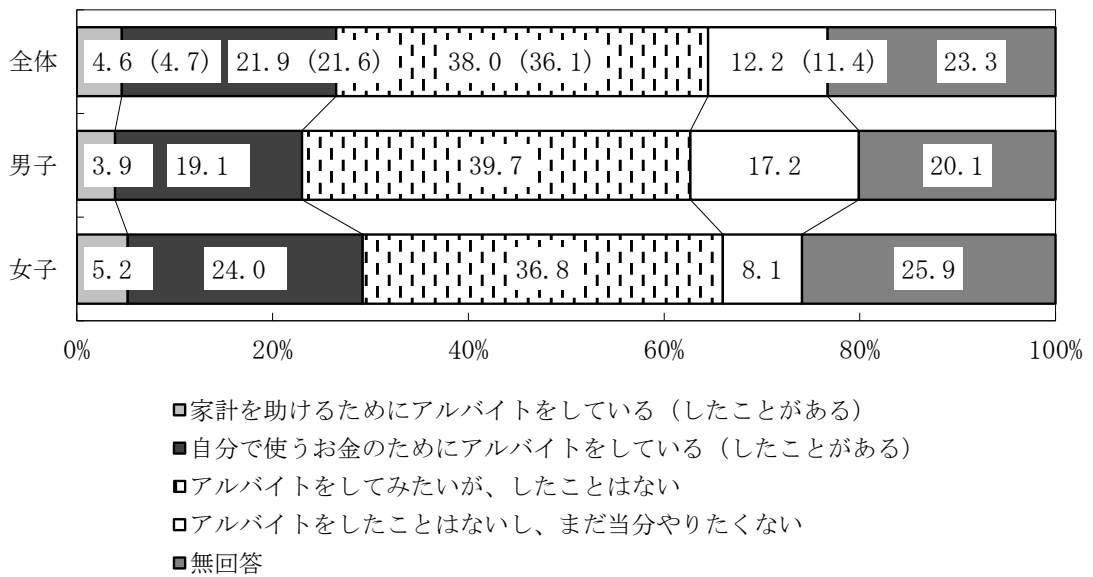
【図表39】アルバイトについて

<中学生>



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<高校生>



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

IV お金についての意識、行動や考え方、金融経済の知識等

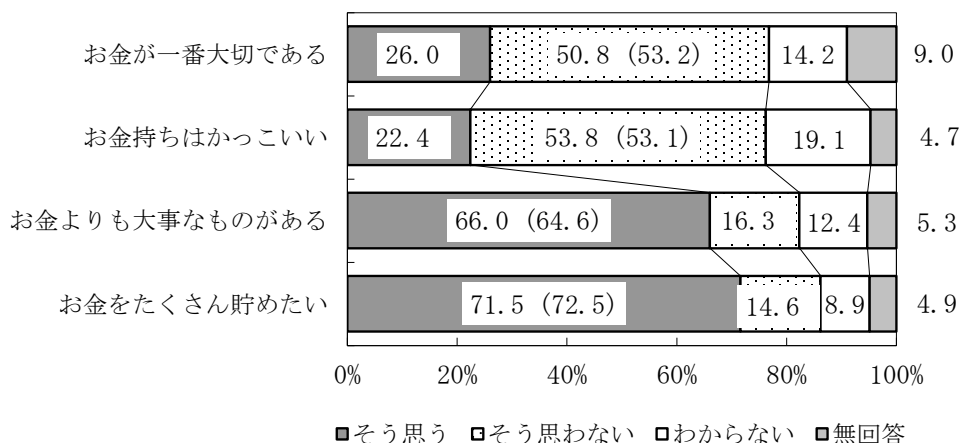
1. お金についての意識

(1) 小学生

- ・「お金をたくさん貯めたい」は、小学生低学年で約7割、中学年で約8割、高学年で9割強が「そう思う」と回答している【図表40】。
- ・「お金よりも大事なものがあある」は、小学生低学年で7割弱、中学年・高学年で8割強が「そう思う」と回答している。

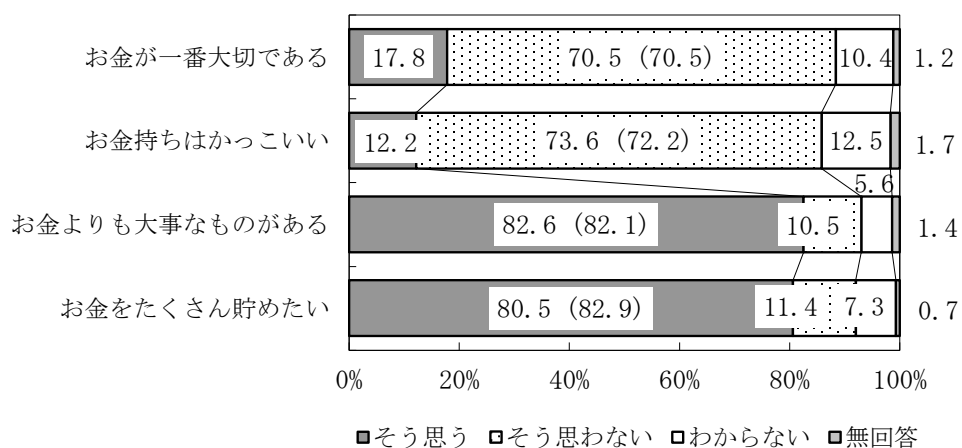
【図表40】 お金についての意識（小学生）

<小学生 低学年>



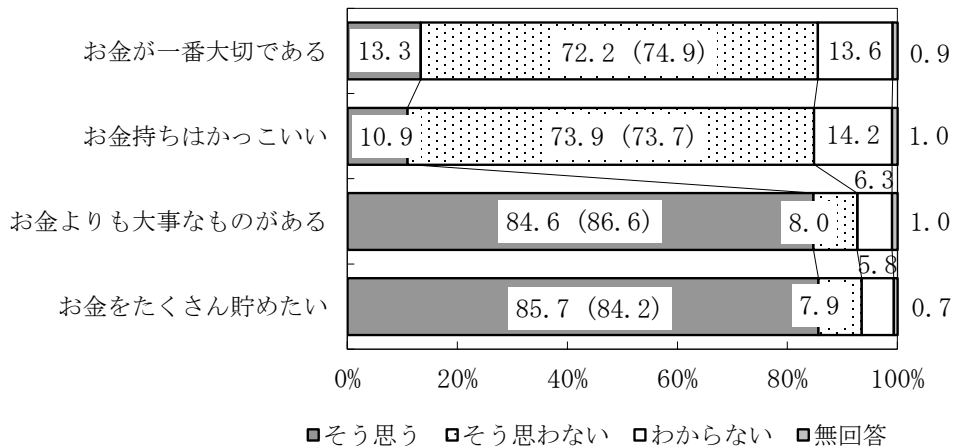
(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<小学生 中学年>



(注) () 内は、前回調査（平成22年度）の結果。

<小学生 高学年>

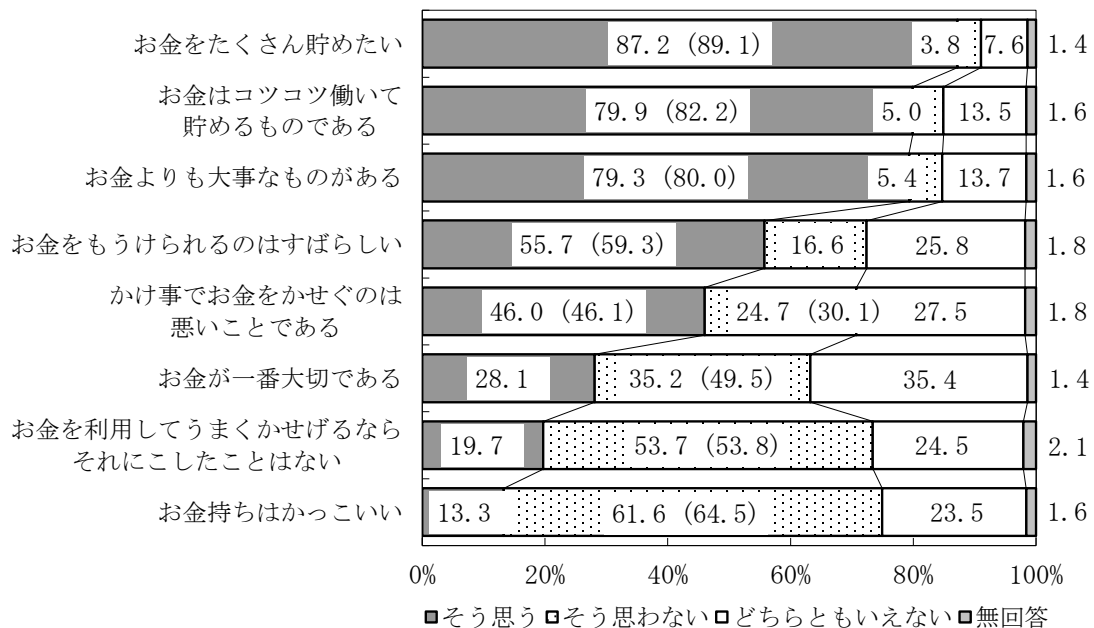


(注) () 内は、前回調査 (平成 22 年度) の結果。

(2) 中学生・高校生

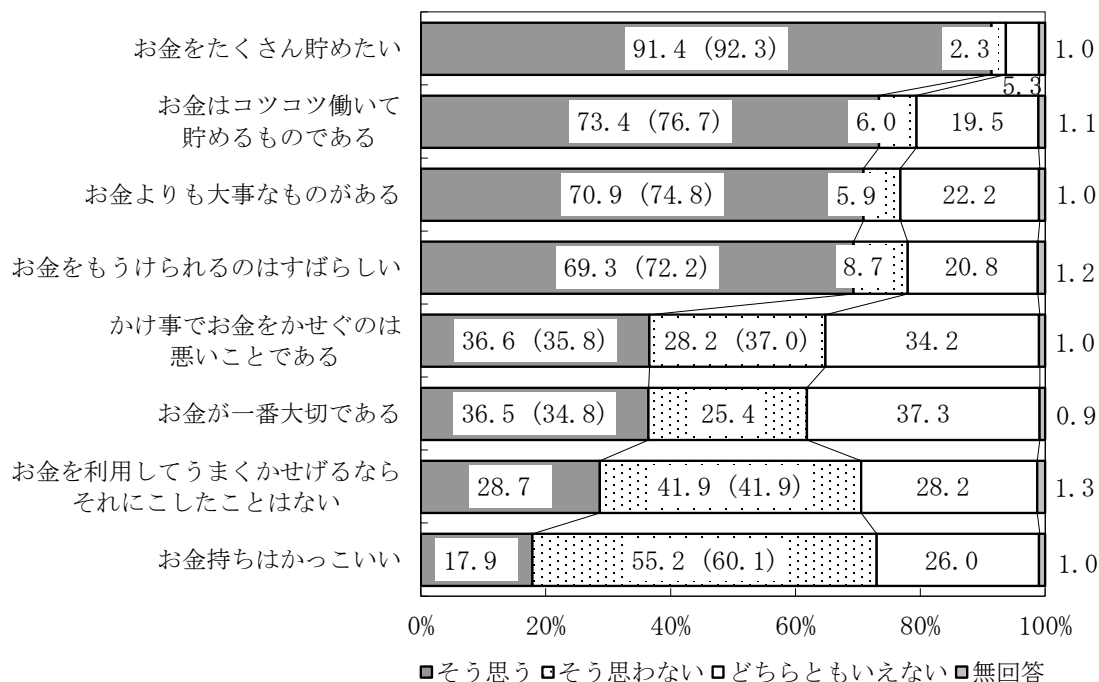
- ・「お金をたくさん貯めたい」は、中学生の 9 割弱、高校生の約 9 割が「そう思う」と回答している【図表 41】【図表 42】。
- ・「お金はコツコツ働いて貯めるものである」は、中学生の約 8 割、高校生の 7 割強が「そう思う」と回答している。
- ・「お金よりも大事なものがあ」は、中学生の約 8 割、高校生の約 7 割が「そう思う」と回答している。
- ・前回調査と比べると、「かけ事でお金をかせぐのは悪いことである」を「そう思わない」と回答する割合が減少している。

【図表 41】 お金についての意識 (中学生)



(注) () 内は、前回調査 (平成 22 年度) の結果。

【図表 42】 お金についての意識（高校生）



(注) () 内は、前回調査（平成 22 年度）の結果。

2. お金に関する行動や考え方等

(1) おこづかい帳の記帳との関係

- お金に関する行動とおこづかい帳の記帳との関係をみると、おこづかい帳を「使ったその日のうちに必ずつける」、「1 週間ごとなど定期的につける」との回答者は、「おこづかいの使い方について、計画を立てている」、「おつりをもらったら、確認している」、「レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている」といった行動に「そうしている」と回答している割合が高い【図表 43】。
- また、「『欲しい』と思ったものは、すぐ買ってしまう」に「あてはまらない」との回答が高くなっている。

【図表 43】 お金に関する行動とおこづかい帳の記帳

おこづかい帳の記帳方法		全体	使ったその日のうちに必ずつける	1 週間ごとなど定期的につける	全然つけない
おこづかいの使い方について、計画を立てている	そうしている	33.5	63.5	58.6	28.7
		30.7	60.0	51.8	27.3
おつりをもらったら、確認している	そうしている	64.9	82.0	79.7	61.4
		61.2	78.0	77.5	58.7
レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている	そうしている	53.0	83.7	79.3	47.0
		46.0	79.8	79.2	41.1
「欲しい」と思ったものは、すぐ買ってしまう	あてはまらない	38.8	52.4	39.1	37.7
		34.2	42.2	42.1	33.6

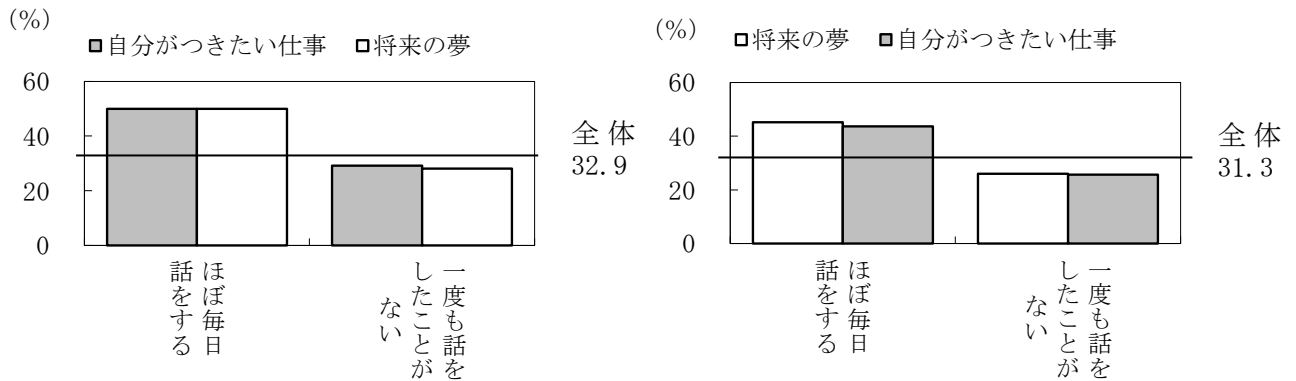
(注) 上段は中学生、下段は高校生。

(2) 家の人との会話との関係

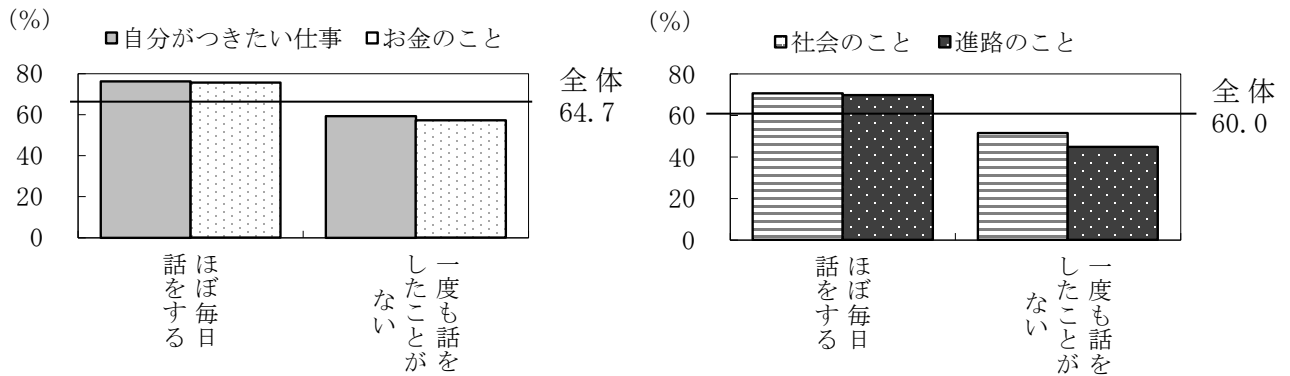
- ・お金に関する行動や考え方等を家の人との会話の頻度との関係でみると、「自分がつきたい仕事」、「将来の夢」、「社会のこと」、「進路のこと」、「お金のこと」について「ほぼ毎日話をする」という回答者の方が、「おこづかいの使い方について計画を立てている」、「おつりをもらったら、確認している」、「レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている」、「高いものを買うときには、どこの店が安いかわか調べたり、類似商品と価格や性能を比べたり、買った人の感想を聞いたりしている（以下、価格等を調べている）」といった日常の暮らしに関連する行動に「そうしている」と回答している割合が高い【図表 44】。
- ・「自分がつきたい仕事」、「将来の夢」、「社会のこと」について「ほぼ毎日話をする」という回答者は、「将来のことよりも現在の方が大事である」といった考え方を「そう思わない」、「気になったことはすぐに調べる」に「あてはまる」と回答している割合が高い。

【図表 44】 お金に関する行動・考え方等と家の人との会話

▽おこづかいの使い方について計画を立てている — 「そうしている」割合
 <中学生> <高校生>

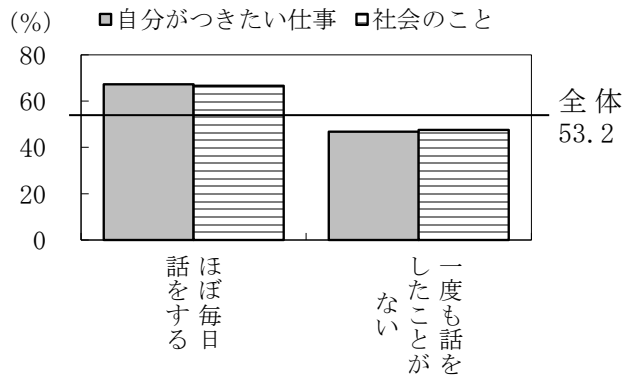


▽おつりをもらったら、確認している — 「そうしている」割合
 <中学生> <高校生>

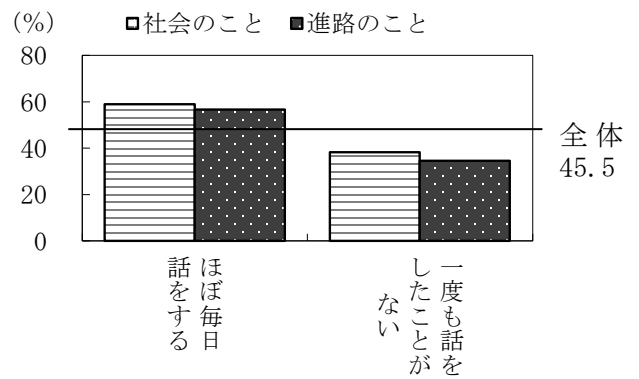


▽レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている — 「そうしている」割合

<中学生>

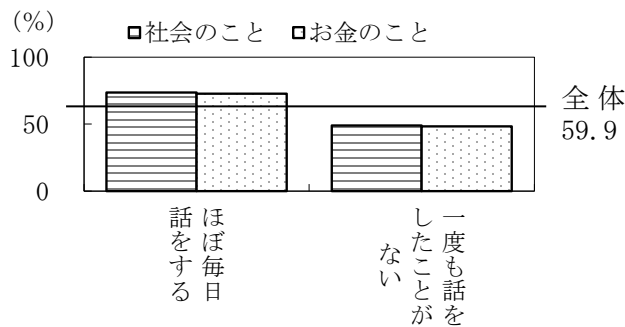


<高校生>

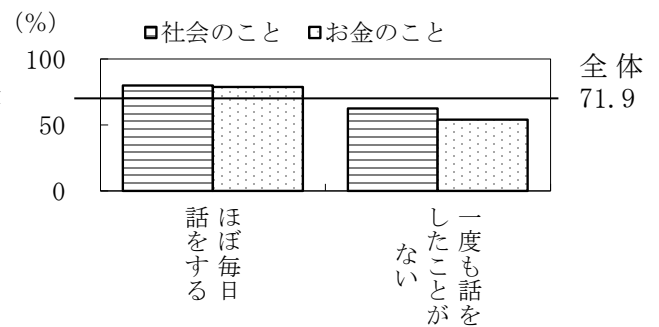


▽高いものを買うときには、どこの店が安いかわけたり、類似商品と価格や性能を比べたり、買った人の感想を聞いたりしている — 「そうしている」割合

<中学生>

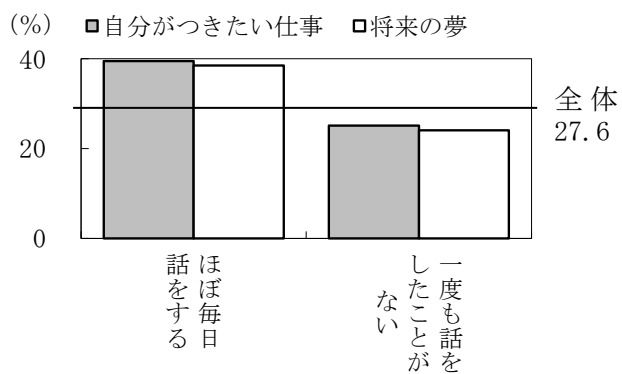


<高校生>

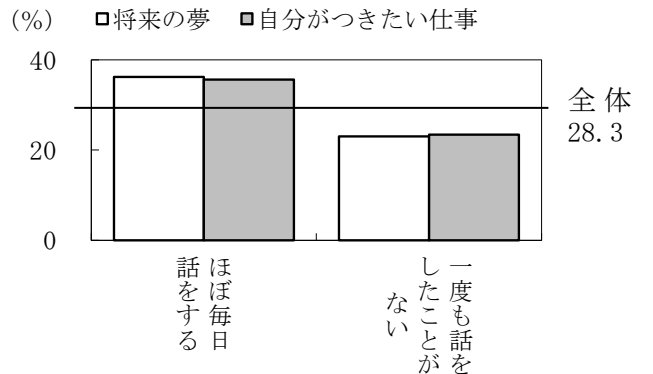


▽将来のことよりも現在の方が大事である — 「そう思わない」割合

<中学生>

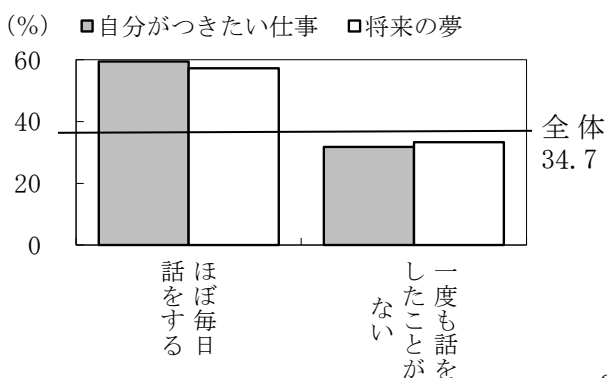


<高校生>

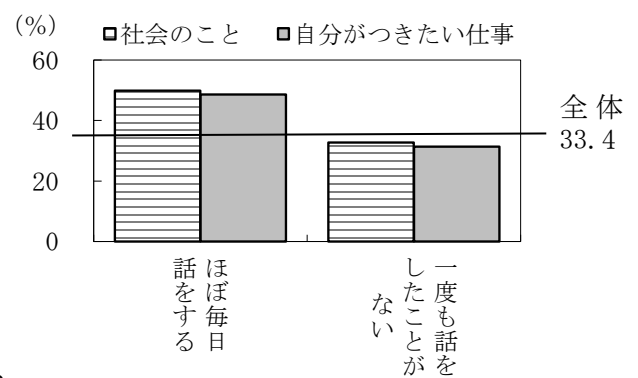


▽気になったことはすぐに調べる — 「あてはまる」割合

<中学生>



<高校生>



3. 金融経済の知識

(1) 金融経済の知識

<ul style="list-style-type: none"> ・「図書カード」（小学生向け設問）、「レンタル CD の延滞金」、「欠陥商品の交換や返品」（中学生・高校生向け設問）、「保険」、「消費税」など、子どもたちの日常の暮らしに比較的身近な知識については、正答率が6割台から8割台であった【図表 45】。 ・「利子の理解」（小学生向け設問）、「物価と金利」、「契約の成立」、「クレジットカード」、「複利」、「インフレ」、「デフレ」、「単利」（中学生・高校生向け設問）などは、正答率が1割台から4割台であった【図表 46】。

【図表 45】 正答率が高かったもの

<小学生>

(正答率、%)

	中学年 (3-4年生)	高学年 (5-6年生)
お金はだれでもつくりすることができる ×	89.8 (89.9)	89.7 (90.8)
日本のお金と、外国のお金は、同じものである ×	85.0 (86.2)	89.0 (88.7)
保険は事故などへの備えである ○	—	87.6 (-)
図書カードは、本屋ではお金と同じように使うことができる ○	—	81.1 (80.6)
ものを買うときには、一緒に税金も払っている ○	49.4 (36.8)	80.6 (73.2)

(注1) 「○」は設問が「正しい」こと、「×」は設問が「誤り」であることを示す。

(注2) 「—」は、調査対象となっていないことを示す。

(注3) () 内は、前回調査(平成22年度)の結果。

<中学生・高校生>

(正答率、%)

	中学生	高校生
買った物が欠陥商品だった場合、交換や返品ができることがある ○	73.2 (77.3)	80.5 (81.1)
レンタル店で借りたCDを期限までに返せない場合、延滞金を払わなければならない ○	72.1 (78.5)	80.5 (81.7)
株価は毎日変動する ○	64.6 (70.0)	80.0 (80.5)
保険は万一の場合の備えである ○	69.9 (73.9)	79.6 (79.5)
価格は需要と供給によって決定される ○	38.1 (41.4)	77.6 (76.5)
物やサービスを購入するときに支払う税金は、消費税である ○	62.5 (61.8)	76.1 (75.1)

【図表 46】 正答率が低かったもの

<物価と金利>

(正答率、%)

	中学生	高校生
物価が年率1%上昇しているときに、銀行に預けているお金の年率2%の金利がついている場合には、預けているお金で買えるものは多くなる ○	—	18.2 (20.4)

<契約の成立>

	中学生	高校生
契約はすべて書類に記名し、印を押すことで成り立つ ×	15.3 (13.8)	19.7 (20.9)

<クレジットカード>

	中学生	高校生
代金前払い方式のカードを、クレジットカードという ×	17.5 (17.5)	25.3 (26.5)
クレジットカードは、申し込みれば誰でも保有することができる ×	—	40.6 (41.2)

<日本銀行の機能>

	中学生	高校生
金融政策を行うのは、日本銀行である ○	23.8 (27.1)	—
日本銀行の金融政策は、現在、主にオープンマーケットオペレーション(公開市場操作)により行われている ○	—	31.7 (33.2)

<利子の理解>

	小学生低学年	
ぎんこうにお金をあずけると、りしがついて、お金がふえる ○	29.9 (34.1)	
	小学生中学年	小学生高学年
銀行や郵便局などに貯金すると、利子をつけて返してくれる ○	20.6 (27.5)	32.1 (38.8)

<複利>

	中学生	高校生
100円についての2円の利子を含めてそのまま年利2%で5年間預け続けると、10円を超える利子がつく ○	25.2 (29.3)	34.7 (33.9)

<インフレ>

	中学生	高校生
インフレが進むと、同じお金で買えるものは少なくなる ○	25.1 (34.3)	43.8 (46.4)

<デフレ>

	中学生	高校生
デフレは、ものの価格が下がり続けていくことをいう ○	23.0 (34.1)	—
デフレは、ものの価格が持続的に下がっていくことをいう ○	—	45.3 (49.0)

<単利>

	中学生	高校生
100円を年利2%で1年間預けると、2円の利子がつく ○	31.3 (36.5)	46.9 (45.7)

<円—ドル相場>

	中学生	高校生
「1ドル=100円」から、「1ドル=80円」になったら、円高(ドル安)である ○	37.9 (49.9)	51.9 (59.6)

<企業の資金調達>

	中学生	高校生
企業は、株式や債券を発行して資金を調達する ○	30.0 (34.2)	52.7 (52.9)

<銀行の機能>

	中学生	高校生
銀行は、預金を企業に貸し出している ○	32.3 (38.8)	54.5 (55.3)

(2) 高校生の金融経済用語の知識

・高校生の金融経済用語の知識をみると、「聞いたことがあり、内容もほぼわかる」との回答が多いのは「振り込み詐欺」、「ニート」、「保証人」。また、その割合が3割より小さくなるにつれ、「聞いたことがない」割合が3割を超える【図表47】。

【図表47】金融経済用語の知識（高校生）

(%)

順位	用語	聞いたことがあり、内容もほぼわかる	聞いたことはあるが、内容はわからない	聞いたことがない
1位	振り込み詐欺	88.6	6.3	3.2
2位	ニート	87.0	8.3	2.9
3位	保証人	70.7	23.4	4.1
4位	国民年金	64.3	29.0	4.8
5位	クーリング・オフ	63.9	26.6	7.6
6位	消費生活センター	40.5	41.2	16.4
7位	社会保険	39.3	50.3	8.5
8位	リスクとリターン	26.7	40.5	30.8
9位	多重債務問題	18.4	31.6	48.0
10位	デビットカード	15.7	42.6	39.9
17位	分散投資	6.1	24.6	67.4
18位	投機	5.6	23.1	69.4
19位	72の法則	2.9	21.3	73.8

(注) 順位は、「聞いたことがあり、内容もほぼわかる」の割合が高い順。

4. PISA2012 類似の問題

・PISA2012 の金融リテラシー調査（※）における設問と類似の問題の回答率をみると、レベル1 およびレベル2 の問題は、中学生・高校生の7～8割が正答している。レベル4 の問題では6割弱、レベル5 の問題では1割程度の正答率となっている【図表48】。

【図表48】 PISA2012 類似の問題の正答率（回答率）

問 題	中学生		PISA2012 に おける設問レベル
	中学生	高校生	
1) 請求書送付の理由	84.3	86.3	レベル1
2) 発送費用	70.5	72.4	レベル2
3) 正しい請求書の金額	10.3	13.2	レベル5
誤答のうちの特定の金額（回答率）	43.3	45.9	レベル3
4) 給与明細	—	55.2	レベル4

（注1）設問の概要は以下のとおり（詳細は、単純集計データを参照）。

- 1) 請求書が送付されてきた理由を4つの選択肢から選ぶ問題
- 2) 請求書記載の内容から送料を回答する記述式の問題
- 3) 請求書記載の注文した商品の数に誤りがあり、正しい請求金額を計算して記述する問題。誤答のうちの特定の回答は、消費税を計算し直していない金額や送料を加えていない金額を回答したもの。
- 4) 給与明細書をもてその月の振込額を4つの選択肢から選ぶ問題

（注2）「—」は、調査対象となっていないことを示す。

（注3）設問レベルは、PISA2012 の金融リテラシー調査において公表されている類似設問のレベルを示す。レベル5が最も高く、レベル3が全体の平均。

以 上

（※）PISA2012 では、初めて金融リテラシー調査を実施。調査参加国のリテラシーレベルは以下のように公表されている。

PISA2012 レベル	中国・上海			OECD 13か国平均	〈参考〉 日本（高校生）
	中国・上海	米 国	9.7		
レベル5	42.6	9.4	9.7	13.2	
レベル4	74.8	28.8	31.6	55.2	
レベル3	93.3	55.9	61.8	45.9	
レベル2	98.4	82.2	84.7	72.4	
レベル1	99.8	94.9	95.2	86.3	

（注1）PISA（Program for International Student Assessment）は、OECD が実施している国際的な学習到達度に関する調査。

（注2）中国・上海、米国、OECD13か国平均は、PISA2012・金融リテラシー調査の全設問への回答を踏まえたレベル別割合に基づいて算出した各レベル以上の生徒の割合。

（注3）日本（高校生）は、図表48 で示しているPISA2012 類似の問題の正答率を再掲。